

ごみ処理基本計画書

平成30年度

足 寄 町

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 第1章 基本計画策定にあたって | 1 |
| 1 計画策定の趣旨 | 1 |
| 2 計画の位置づけ | 2 |
| 3 計画期間 | 2 |
| 4 組合の経緯 | 3 |
| 第2章 地域の概況 | 4 |
| 1 自然環境 | 4 |
| 2 社会環境 | 6 |
| 第3章 国・北海道の計画 | 8 |
| 1 第四次循環型社会形成推進基本計画 | 8 |
| 2 廃棄物処理基本方針 | 9 |
| 3 北海道廃棄物処理計画 | 10 |
| 第4章 ごみ処理の現状 | 11 |
| 1 ごみ処理体制 | 11 |
| 2 ごみ排出量実績 | 12 |
| 3 ごみ発生抑制・排出抑制 | 15 |
| 4 収集運搬 | 17 |
| 5 中間処理 | 20 |
| 6 最終処分 | 23 |
| 7 ごみ処理の課題 | 24 |
| 第5章 計画の基本方針 | 25 |
| 1 基本方針 | 25 |
| 2 数値目標 | 26 |
| 3 町民・事業者・行政の役割 | 27 |
| 第6章 ごみ排出量の推計 | 28 |
| 第7章 計画の推進方策 | 30 |
| 1 施策の体系 | 30 |
| 2 町民・事業者・行政の行動指針 | 31 |
| 3 発生抑制と排出抑制の推進 | 32 |
| 4 資源化の推進 | 33 |
| 5 適正処理の確保 | 34 |
| 第8章 ごみ処理計画 | 35 |
| 1 ごみ処理体制 | 35 |
| 2 収集運搬計画 | 36 |
| 3 中間処理計画 | 38 |
| 4 最終処分計画 | 39 |

1 計画策定の趣旨

大量生産・大量消費の社会構造は、豊かな社会を実現しましたが、その結果、使い捨て文化が進行し、日常生活や事業活動から多種多様な廃棄物が増大しました。

このため、大量生産・大量消費・大量廃棄という社会経済システムから、廃棄物の発生抑制・循環利用・適正処理によって天然資源の消費を抑制し、環境負荷を低減する循環型社会への転換が強く求められるようになりました。

国においては「循環型社会形成推進基本法」を制定し、循環型社会に対する基本的な考え方や枠組みを示すとともに、この法律の下で「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下、廃棄物処理法」という。）と「資源の有効な利用の促進に関する法律」が両輪となって廃棄物の適正処理、リサイクルの推進を図るほか、個別品目の特性に応じた「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」など各規制法に沿った具体的な施策が展開され、一定の成果を得ています。

本別町・足寄町・陸別町が参画する池北三町行政事務組合（以下、「組合」という。）は、ごみ処理を取り巻く社会環境を踏まえ、今後のごみ処理事業の方向性を示した「ごみ処理基本計画」を平成16年2月に策定しました。その後、計画期間終了を踏まえ、平成26年2月に計画期間を平成30年3月まで延伸しました。そして、これら計画をもとに、循環型社会の構築に向けて資源化の推進や適正処理の確保に努めてきました。

ここ数年は、十勝圏複合事務組合の処理施設における広域処理の検討・協議を行い、平成31年4月から広域処理を実施することとなりました。

現在のごみ処理基本計画の計画期間が平成30年度までであること、また今後のごみ処理の方向性が明らかになったことから、このたび新たな「ごみ処理基本計画」を策定することとしました。

基本計画策定にあたっては、足寄町のごみ処理の現状を踏まえ、循環型社会形成に向けた国及び北海道の計画や方向性に十分配慮し、足寄町が今後進める基本的な方向を定めるほか、ごみ処理に関する数値目標を設定します。そして、これらの進捗状況の管理を適切に行い、計画の着実な推進を図っていきます。

2 計画の位置づけ

本計画は、「廃棄物処理法」第6条第1項に定める一般廃棄物の処理に関する計画（一般廃棄物処理計画）のうち、ごみ処理基本計画にあたります。

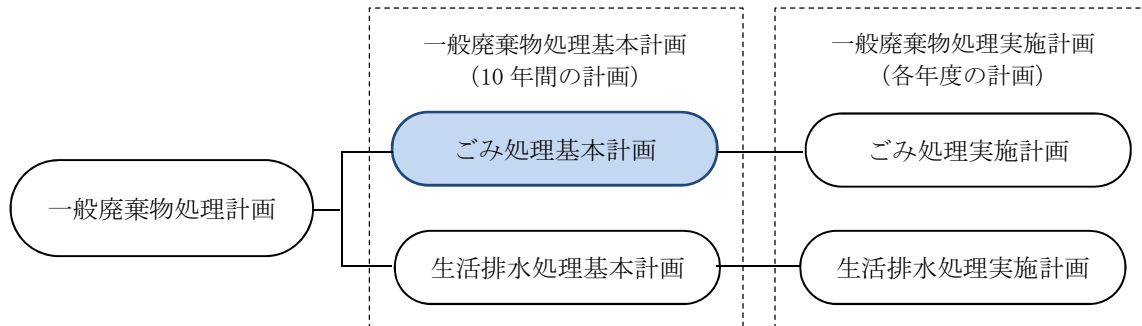


図 1-1 計画の法律上の位置づけ

(注) 廃棄物処理法では、廃棄物は処理責任の体系から「一般廃棄物」と「産業廃棄物」に分類されています。一般廃棄物とは、家庭から排出される廃棄物と、事業活動に伴って生じる産業廃棄物以外の廃棄物からなっています。

3 計画期間

本計画の期間は、2019年度から2028年度までの10年間とします。

2023年度の中間目標年度、もしくは目標の達成状況や社会情勢の変化などを踏まえた適切な時期に見直しを行います。

| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2025 | 2027 | 2028 |
|----|--------|------|------|------|--------|------|------|------|------|--------|
| 内容 | 計画開始年度 | | | | 中間目標年度 | | | | | 計画目標年度 |

← 計画期間 →

図 1-2 計画の期間

4 組合の経緯

組合は、本別町・足寄町・陸別町の3町で構成されています。

池北三町浄化センター組合（昭和44年設立）、足寄町外二町十勝オンネトー青年の家組合（昭和38年設立）を池北三町消防事務組合（昭和45年設立）に統合し、昭和62年4月1日に3町の消防・し尿処理の広域事務組合として池北三町行政事務組合が発足しました。

平成10年の廃棄物処理法の改正、平成11年の3町のごみ広域処理の検討を契機に、平成12年7月に北海道知事より池北三町広域行政としての廃棄物処理事務の許可を得ました。

そして、3町のごみ広域処理施設として堆肥化施設、リサイクルプラザ、最終処分場の整備を計画し、平成14年12月に銀河クリーンセンターが供用開始しました。

平成18年4月には、下水道の普及によるし尿収集量の減少、処理施設の老朽化に伴う維持管理費の増加を踏まえ、3町は十勝環境複合事務組合に加入し、し尿処理事務は休止しました。

ごみ処理事務については、2019年4月から十勝圏複合事務組合に3町が加入し、ごみの広域処理を行います。これに伴い、組合は解散します。

1 自然環境

(1) 位置・面積

足寄町は、北海道の中央部からやや東側に位置し、総面積は 1,408.04km² です。北部は陸別町・置戸町・津別町、東部は釧路市・白糠町、西部は上士幌町、南部は本別町と接しています。

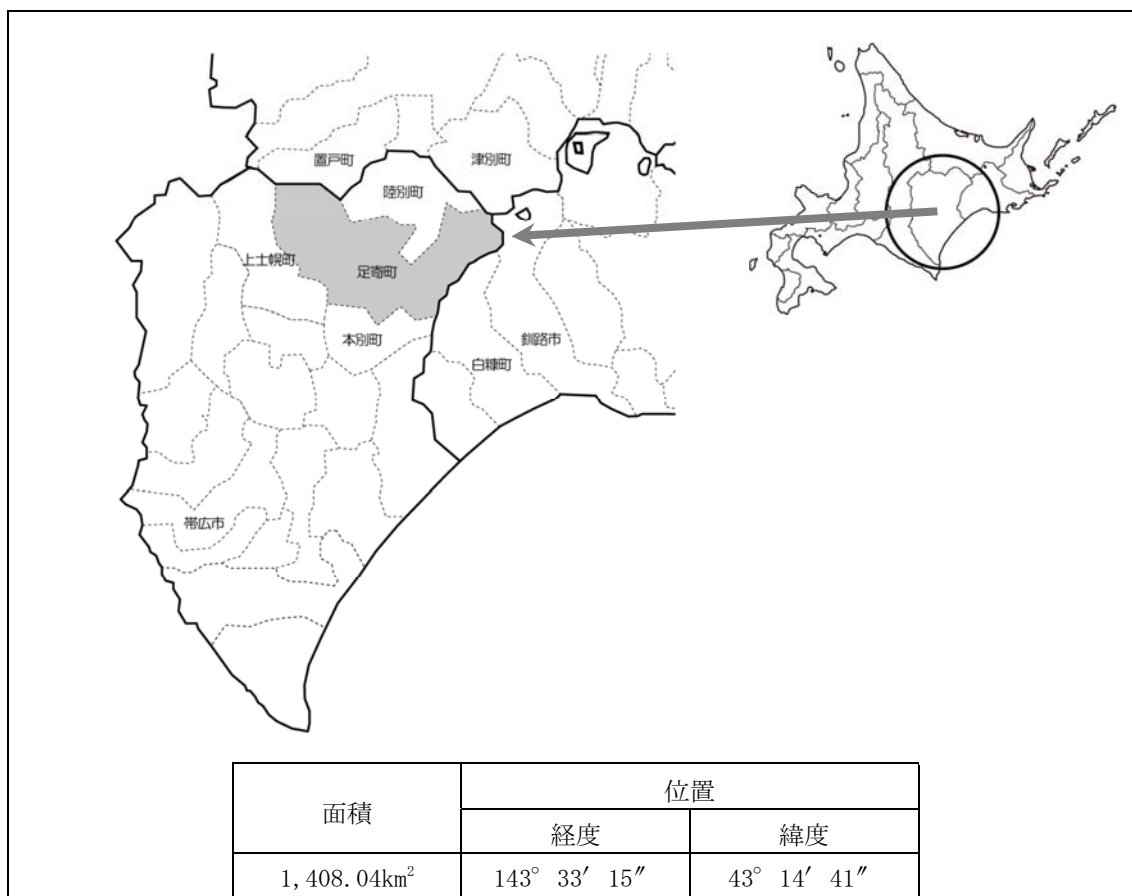


図 2-1 足寄町の位置

(2) 地勢

足寄町は、土地の大半が森林で占められています。

北西部は東三国山・喜登牛山・クマネシリ岳等の山々、南東部は雌阿寒岳・阿寒富士をはじめとする阿寒山麓群に囲まれており、平野部には扇状地と段丘が広がっています。また、東部からは阿寒山麓を源とする足寄川が流れています。

(3) 気象

山々に囲まれたこの地域は、十勝特有の内陸性気候に属しています。

夏と冬の温度差が激しく、夏は暑い年は35℃以上、冬は寒い年でマイナス25℃以下になります。平均風速は1~2m/sと比較的弱く、降水量は7~9月が多くなります。

表 2-1 気温・平均風速

| | 最高気温 ℃ | 最低気温 ℃ | 平均風速 m/s |
|-------|-----------|-----------|-------------|
| 平成20年 | 32.1 | -24.0 | 1.6 |
| 平成21年 | 34.2 | -22.2 | 1.4 |
| 平成22年 | 37.1 | -26.3 | 1.6 |
| 平成23年 | 34.6 | -24.1 | 1.5 |
| 平成24年 | 33.3 | -26.6 | 1.4 |
| 平成25年 | 33.7 | -26.8 | 1.5 |
| 平成26年 | 35.3 | -22.9 | 1.5 |
| 平成27年 | 36.3 | -22.5 | 1.6 |
| 平成28年 | 33.1 | -23.2 | 1.6 |
| 平成29年 | 36.6 | -25.5 | 1.6 |

※気象観測データ

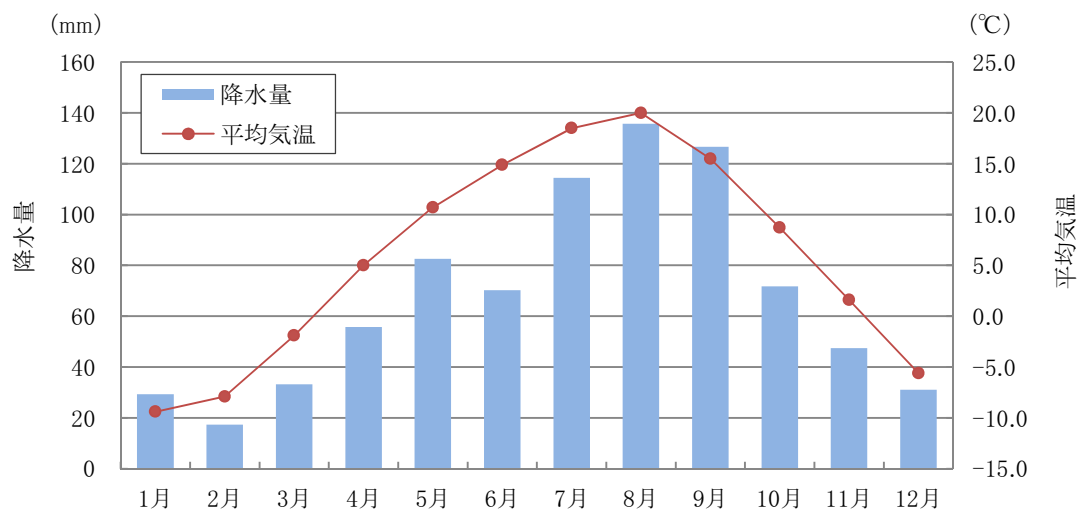


図 2-2 降水量・平均気温 (平年値)

※気象観測データ

2 社会環境

(1) 人口・世帯数

人口は年々減少しており、ここ30年間で約40%減少しました。1世帯あたりの人口も年々減少しており、平成27年は2.2人/世帯となっています。

年齢階級別人口は、ここ10年間で60歳未満の人口割合が減少する一方、60歳以上の人口割合が増加しており、高齢化が顕著となっています。

表 2-2 人口・世帯数

(単位：人、世帯、人/世帯)

| | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|-----------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人口 | 11,586 | 10,289 | 9,522 | 8,871 | 8,317 | 7,630 | 6,990 |
| 世帯数 | 3,840 | 3,638 | 3,601 | 3,573 | 3,491 | 3,348 | 3,179 |
| 1世帯あたりの人口 | 3.0 | 2.8 | 2.6 | 2.5 | 2.4 | 2.3 | 2.2 |

※国勢調査

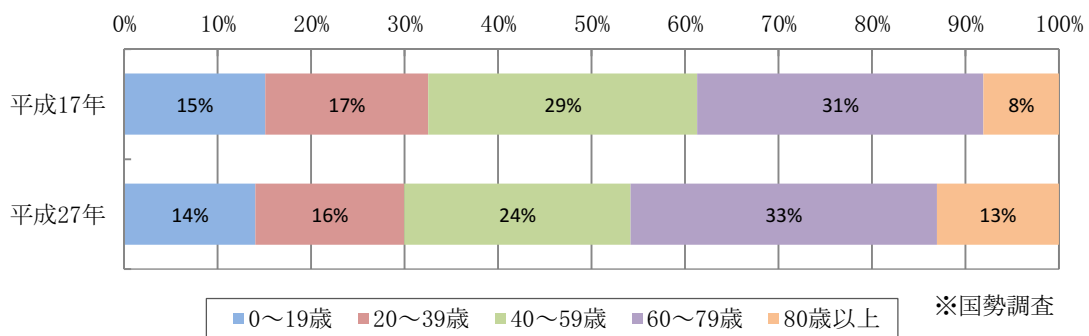


図 2-3 年齢階級別人口割合の推移

(2) 産業

平成27年度の産業別就業者人口は、農業・林業が最も多く、次いで医療・福祉、卸売業・小売業、公務の順で多くなっています。

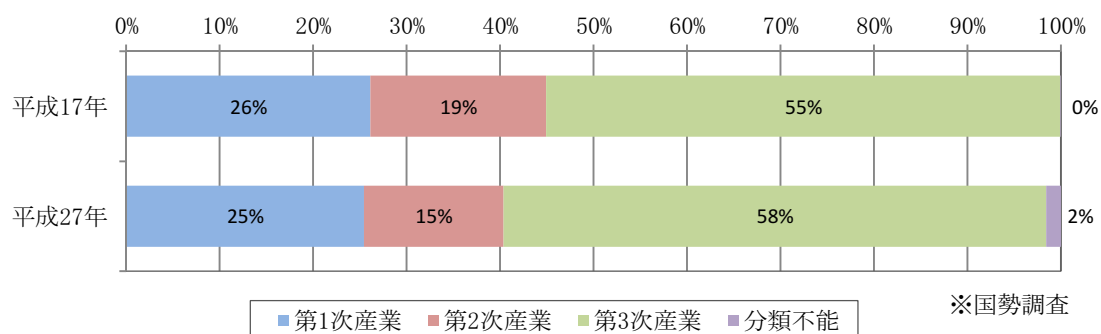
産業別就業者人口割合は、ここ10年間で第1次産業及び第2次産業がわずかに減少し、第3次産業が増加しています。

表 2-3 産業別就業者人口（平成 27 年）

（単位：人）

| | | 就業者数 |
|-------|-------------------|-------|
| 第1次産業 | 農業・林業 | 893 |
| | 漁業 | 2 |
| | 計 | 895 |
| 第2次産業 | 鉱業、採石業、砂利採取業 | 7 |
| | 建設業 | 291 |
| | 製造業 | 226 |
| | 計 | 524 |
| 第3次産業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 21 |
| | 情報通信業 | 1 |
| | 運輸業、郵便業 | 121 |
| | 卸売業、小売業 | 340 |
| | 金融業、保険業 | 46 |
| | 不動産業、物品賃貸業 | 15 |
| | 学術研究、専門・技術サービス業 | 87 |
| | 宿泊業、飲食サービス業 | 151 |
| | 生活関連サービス業、娯楽業 | 88 |
| | 教育、学習支援業 | 123 |
| | 医療、福祉 | 434 |
| | 複合サービス業 | 124 |
| | サービス業（他に分類されないもの） | 181 |
| | 公務（他に分類されないもの） | 309 |
| | 計 | 2,041 |
| | 分類不能の産業 | |
| 合計 | | 3,516 |

※国勢調査



※国勢調査

図 2-4 産業別就業者人口割合の推移

1 第四次循環型社会形成推進基本計画

国は、循環型社会形成推進基本法に基づき、平成30年6月に「第四次循環型社会形成推進基本計画」を策定しました。

表 3-1 第四次循環型社会形成推進基本計画の概要

| 項目 | 概要 | |
|----------|--------------------------|---|
| 中長期的な方向性 | 持続可能な社会づくりとの統合的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> 誰もが、持続可能な形で資源を利用でき、環境への負荷が地球の環境容量内に抑制され、健康で安全な生活と豊かな生態系が確保された世界 環境、経済、社会的側面を統合的に向上 |
| | 地域循環共生圏形成による地域活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の資源生産性向上 生物多様性の確保 低炭素化 地域の活性化 災害に強いコンパクトで強靱なまちづくり |
| | ライフサイクル全体での徹底的な資源循環 | <ul style="list-style-type: none"> 第四次産業革命により、「必要なモノ・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」 |
| | 適正処理の推進と環境再生 | <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の適正処理（システム、体制、技術の適切な整備） 地域環境の再生（海洋ごみ、不法投棄、空き家等） 震災被災地の環境再生、未来志向の復興創生 |
| | 災害廃棄物処理体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 災害廃棄物の適正・迅速な処理（平時より重層的な廃棄物処理システムを強靱化） |
| | 適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開 | <ul style="list-style-type: none"> 資源効率性が高く、現在及び将来世代の健康で安全な生活と豊かな生態系が確保された世界 |
| | 循環分野における基盤整備 | <ul style="list-style-type: none"> 情報基盤の整備・更新、必要な技術の継続的な開発、人材育成 多様な主体が循環型社会づくりの担い手であることを自覚して行動する社会 |
| 指標・数値目標 | 資源生産性 | 約49万円/ t（平成37年度） |
| | 入口側の循環利用率 | 約18%（平成37年度） |
| | 出口側の循環利用率 | 約47%（平成37年度） |
| | 最終処分量 | 約1,300万 t（平成37年度） |
| | 循環型社会ビジネスの市場規模 | 平成12年度の約2倍（平成37年度） |
| | 期間中に整備されたごみ焼却施設の平均発電効率 | 21%（平成34年度） |
| | 1人1日あたりのごみ排出量 | 約850 g /人・日（平成37年度） |
| | 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量 | 約440 g /人・日（平成37年度） |
| | 一般廃棄物最終処分場の残余年数 | 平成29年度の水準（20年分）を維持（平成34年度） |
| | 災害廃棄物処理計画策定率 | 都道府県100%、市町村60%（平成37年度） |

2 廃棄物処理基本方針

国は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針（廃棄物処理基本方針）」を定めています。平成 28 年 1 月に見直しが行われました。

表 3-2 廃棄物処理基本方針の概要

| 項目 | | 概要 |
|----------------------|--|---|
| 基本的な方向 | | <ul style="list-style-type: none"> 世界的な資源制約の顕在化や、災害の頻発化・激甚化、地球環境問題へ対応する。 低炭素社会や自然共生社会との統合にも配慮した取組を推進する。 |
| 減量化の目標 (平成 32 年度) | 排出量 | <ul style="list-style-type: none"> 【一般廃棄物】平成24年度比約12%削減 【産業廃棄物】平成24年度に対し増加を約3%に抑制 |
| | 再生利用率 | <ul style="list-style-type: none"> 【一般廃棄物】平成24年度約21%から約27%に増加 【産業廃棄物】平成24年度約55%から約56%に増加 |
| | 最終処分量 | <ul style="list-style-type: none"> 【一般廃棄物】平成24年度比約14%削減 【産業廃棄物】平成24年度比約1%削減 |
| | 1人1日あたり家庭系ごみ排出量：500g/人・日 | |
| その他の目標 (平成 30 年度) | 家庭系食品ロスの発生量を把握している市町村数：200市町村（平成25年度43市町村） | |
| | 家電リサイクル法上の小売業者の引取義務外品の回収体制構築市町村割合：100%（平成25年度約59%） | |
| | 使用済小型電子機器等の再生のための回収実施市町村割合：80%（平成25年度約43%） | |
| 施策推進に関する基本的事項 | 国民の役割 | <ul style="list-style-type: none"> 食品の購入に当たっては、適量の購入等により食品ロスを削減する。 自ら排出する一般廃棄物の排出抑制に取り組むとともに、事業者が排出する一般廃棄物の排出抑制に協力する。 使用済小型電子機器等を市町村等へ引き渡す。 |
| | 市町村の役割 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携体制の構築や、民間事業者の活用に努める。 民間事業者の活用・育成や市町村が自ら行う再生利用等の実施等について、市町村が定める一般廃棄物処理計画において、適切に位置づけるように努める。 他の地方公共団体や関係主体と連携・協働して地域循環圏の形成に努める。 災害時における適正かつ円滑・迅速な処理体制を確保する。 |
| | 国の役割 | <ul style="list-style-type: none"> ポリ塩化ビフェニル廃棄物について、地方公共団体と連携しつつ、确实かつ適正な処理を進めていくものとする。 水銀廃棄物の適正な回収を促進する。 |
| | 廃棄物の適正処理を確保するための必要な体制の確保 | <ul style="list-style-type: none"> 事業系食品廃棄物に関し、排出事業者が自ら積極的に再生利用を実施しようとする場合に、これを実現できるよう、民間事業者の活用も考慮した上で、適切な選択肢を設ける。 地方公共団体等関係者と連携して、電子マニフェストの使用の促進を図る。 |
| | 今後の要最終処分量と全国的な施設整備の目標 | <ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄物の再生利用に係る施設については、他の市町村や民間の廃棄物処理業者とも連携して処理能力の向上に取り組む。 焼却施設については、中長期的には、焼却される全ての一般廃棄物について熱回収が図られるよう取組を推進していくものとする。 |
| 廃棄物処理施設の整備に関する基本的事項 | 産業廃棄物の適正処理に必要な処理施設の整備 | <ul style="list-style-type: none"> 熱回収施設設置者認定制度等を活用しながら、適正処理の確保を基本としつつ、温室効果ガスの排出抑制に配慮した処理施設の整備を推進する。 |

3 北海道廃棄物処理計画

北海道は、平成 27 年 3 月に「北海道廃棄物処理計画（第 4 次）」を策定しました。

北海道廃棄物処理計画（第 4 次）は、国の廃棄物処理基本方針で示されている廃棄物の排出抑制、適正な循環的利用、適正処分の確保のほか、北海道が目指す循環型社会の実現に向けたバイオマスの利活用、リサイクル関連産業を中心とした循環型社会ビジネスの振興を視点としています。

表 3-3 北海道廃棄物処理計画の目標

| 項目 | 指標 | 基準年度 (平成 24 年度) | 目標年度 (平成 31 年度) |
|---------------------|-----------------------------------|--------------------|------------------------|
| 排出抑制に関する 目標 | 一般廃棄物の排出量 | 2,013千 t | 1,800千 t 以下 (約11%減) |
| | 1人1日あたりのごみ排出量 | 1,004 g /人・日 | 940g/人・日以下 |
| | 1人1日あたりの家庭ごみ排出量 | 622 g /人・日 | 590g/人・日以下 |
| | 産業廃棄物の排出量 | 38,752千 t | 39,000千 t 以下 |
| 適正な循環的利用 に関する目標 | 一般廃棄物のリサイクル率 | 23.6% | 30%以上 |
| | 産業廃棄物の再生利用率 | 55.9% | 57%以上 |
| 適正処分の確保に 関する目標 | 一般廃棄物の最終処分量 | 402千 t | 290千 t 以下 (約28%削減) |
| | 産業廃棄物の最終処分量 | 721千 t | 570千 t 以下 (約21%削減) |
| バイオマスの利活 用に関する目標 | 廃棄物系バイオマス利活用率 (排出量ベース (炭素換算量)) | 86% | 88%以上 |

1 ごみ処理体制

ごみの分別区分は、資源ごみ・生ごみ・埋立ごみ・粗大ごみ・危険ごみの5区分です。

家庭から排出されたごみの収集は足寄町が実施しており、収集した資源ごみの一部から資源回収業者が資源物を回収しているほかは、組合の銀河クリーンセンターに搬入して中間処理・最終処分を行っています。銀河クリーンセンターでは、住民あるいは事業者が直接持ち込んだごみの中間処理・最終処分も行っています。

資源ごみ・危険ごみは、リサイクル施設において資源化処理を行っています。生ごみは、高速堆肥化施設において堆肥化処理を行っています。粗大ごみは、破碎施設において破碎選別処理を行っています。これら中間処理で生じた残渣・不適物と埋立ごみは、最終処分場において埋立処分を行っています。

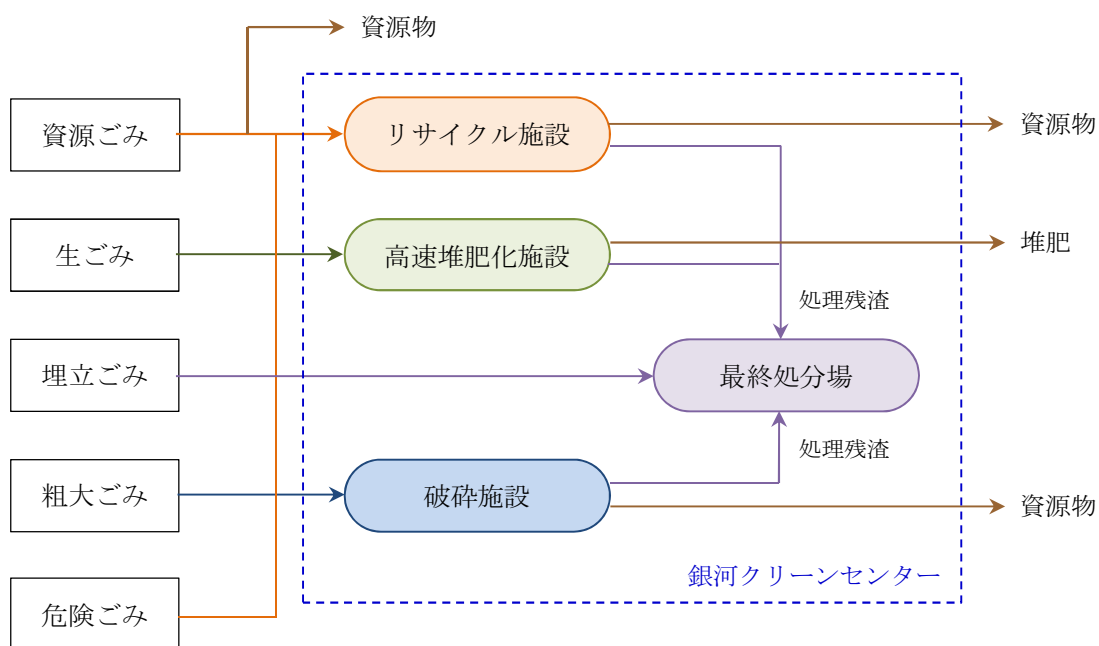


図 4-1 ごみ処理フロー

2 ごみ排出量実績

平成 25 年度～平成 29 年度の過去 5 年間のごみ排出量実績を以下に示します。

ごみ排出量は、平成 26 年度から平成 27 年度にかけて増加しましたが、その後は減少しています。平成 29 年度のごみ排出量は 1,762 t/年で、平成 28 年度から 29 t/年 (1.6%) 減少しました。

排出量原単位は、平成 29 年度において 1 人 1 日あたり 692 g であり、平成 27 年度以降ほぼ横這いで推移しています。

組合搬入ごみ排出量についても平成 27 年度以降減少しており、平成 29 年度は 1,489 t/年です。分別区分ごとの内訳は、埋立ごみが 486 t/年 (32.6%) と最も多く、次いで資源ごみ 470 t/年 (31.6%)、生ごみ 430 t/年 (28.9%) となっています。

町単独資源ごみについては、新聞紙・雑誌、その他紙製容器類の排出量が多くなっています。

表 4-1 ごみ排出量実績

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 組合搬入 | 計画収集ごみ | t/年 | 1,188 | 1,141 | 1,124 | 1,234 | 1,106 |
| | 直接搬入ごみ | t/年 | 404 | 331 | 412 | 296 | 383 |
| | 計 | t/年 | 1,592 | 1,472 | 1,536 | 1,530 | 1,489 |
| 町単独 | 資源ごみ | t/年 | 276 | 264 | 275 | 261 | 274 |
| 合計 | | t/年 | 1,868 | 1,736 | 1,811 | 1,791 | 1,763 |
| (行政区域内人口) | | 人 | 7,398 | 7,263 | 7,164 | 7,076 | 6,972 |
| 排出量原単位 | | g/人・日 | 692 | 655 | 693 | 693 | 693 |

※排出量原単位 = ごみ排出量 ÷ 行政区域内人口 ÷ 365日 × 10⁶

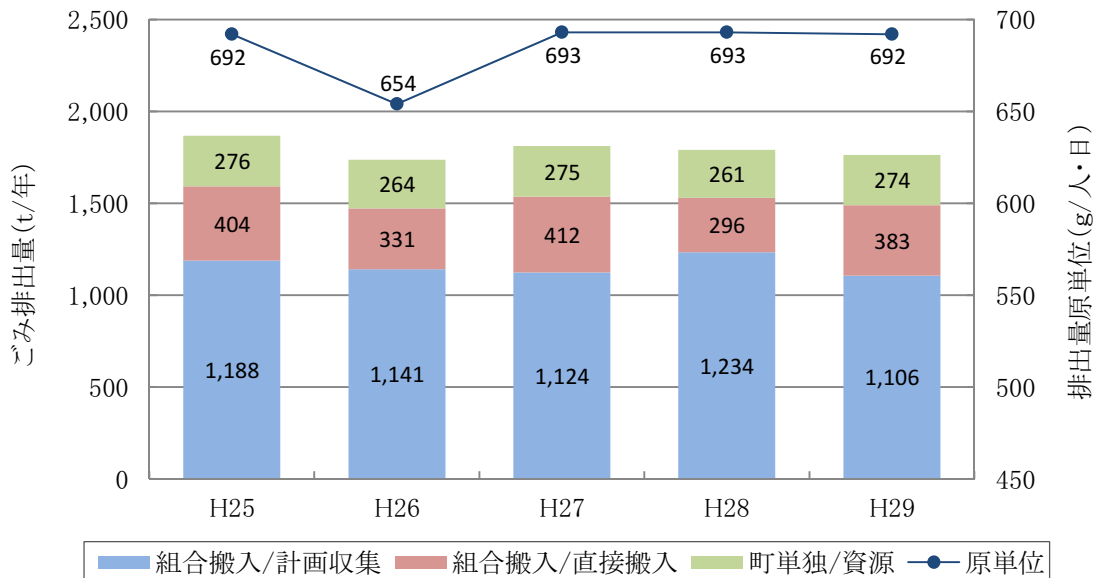


図 4-2 ごみ排出量実績

表 4-2 組合搬入ごみ排出量実績

(単位：t/年)

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 計画収集 | 資源ごみ | 424 | 408 | 404 | 396 | 395 |
| | 生ごみ | 324 | 316 | 307 | 284 | 289 |
| | 埋立ごみ | 377 | 356 | 358 | 362 | 366 |
| | 粗大ごみ | 34 | 35 | 31 | 34 | 33 |
| | 危険ごみ外 | 29 | 26 | 24 | 158 | 23 |
| | 計 | 1,188 | 1,141 | 1,124 | 1,234 | 1,106 |
| 直接搬入 | 資源ごみ | 69 | 61 | 77 | 66 | 75 |
| | 生ごみ | 106 | 111 | 108 | 94 | 141 |
| | 埋立ごみ | 143 | 116 | 118 | 92 | 120 |
| | 粗大ごみ | 33 | 30 | 38 | 32 | 36 |
| | 危険ごみ外 | 53 | 13 | 71 | 12 | 11 |
| | 計 | 404 | 331 | 412 | 296 | 383 |
| 合計 | 資源ごみ | 493 | 469 | 481 | 462 | 470 |
| | 生ごみ | 430 | 427 | 415 | 378 | 430 |
| | 埋立ごみ | 520 | 472 | 476 | 454 | 486 |
| | 粗大ごみ | 67 | 65 | 69 | 66 | 69 |
| | 危険ごみ外 | 82 | 39 | 95 | 170 | 34 |
| | 計 | 1,592 | 1,472 | 1,536 | 1,530 | 1,489 |

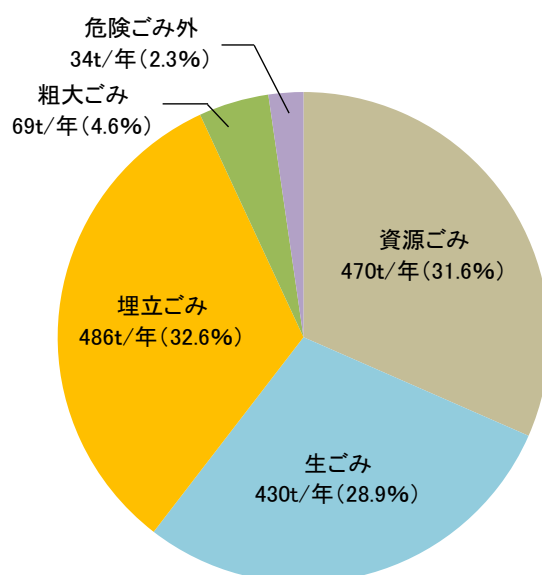


図 4-3 組合搬入ごみ排出量の内訳 (平成 29 年度)

表 4-3 町単独資源ごみ排出量実績

(単位：t/年)

| 区分 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 金属類 | 34.9 | 31.9 | 33.0 | 28.4 | 22.4 |
| 缶類 | 5.4 | 6.0 | 7.1 | 9.2 | 7.7 |
| 紙パック | 2.7 | 13.3 | 2.2 | 2.6 | 2.6 |
| ダンボール | 43.5 | 27.5 | 41.6 | 38.1 | 54.0 |
| 新聞紙・雑誌 | 100.4 | 83.9 | 87.7 | 79.3 | 72.2 |
| その他紙製容器類 | 66.9 | 62.0 | 66.1 | 65.1 | 78.1 |
| ペットボトル | 18.2 | 20.1 | 20.1 | 21.8 | 20.4 |
| 衣類 | 0.5 | 15.1 | 13.2 | 12.7 | 12.7 |
| 廃食用油 | 3.4 | 3.8 | 3.6 | 3.7 | 3.5 |
| 合計 | 275.9 | 263.6 | 274.6 | 260.9 | 273.6 |

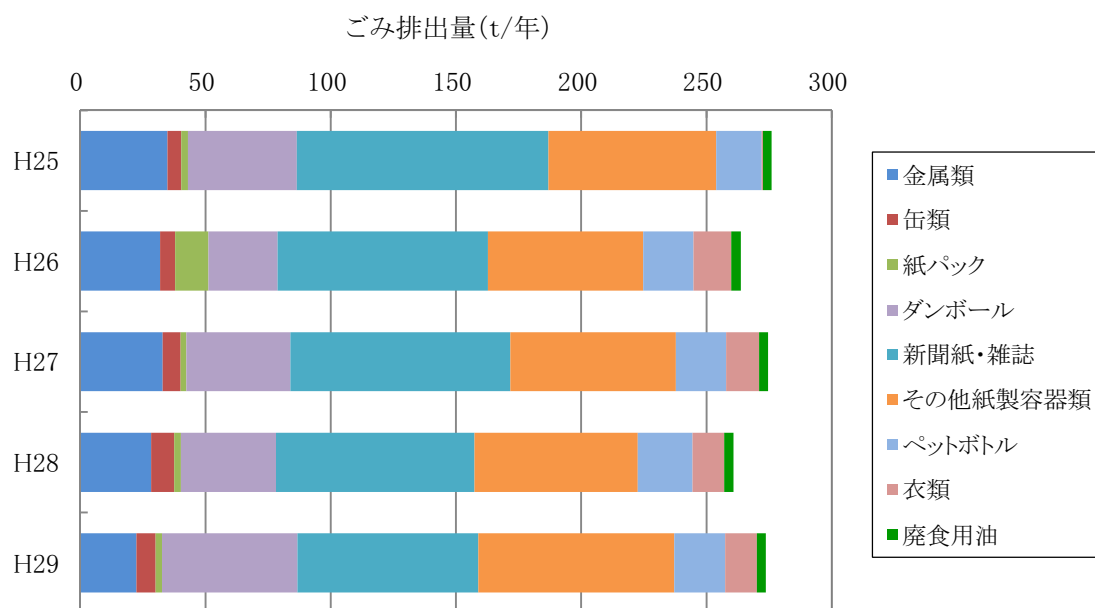


図 4-4 町単独資源ごみ排出量実績

3 ごみ発生抑制・排出抑制

(1) 集団回収

平成18年度より自治会その他の団体による資源回収を支援するため、集団回収量に応じて奨励金を支給しています。平成25年度～平成29年度の過去5年間の実績を以下に示します。

表 4-4 集団回収実績

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|--------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 回収団体 | 団体 | 45 | 45 | 46 | 45 | 45 |
| 集団回収量 | t/年 | 214 | 221 | 225 | 229 | 217 |
| 奨励金交付額 | 円 | 855,881 | 884,856 | 900,132 | 916,150 | 977,940 |

表 4-5 集団回収量の内訳

(単位：kg)

| 区分 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 金属類 | 2,055 | 2,392 | 5,218 | 10,298 | 6,723 |
| 缶類 | 26,435 | 28,249 | 29,835 | 28,459 | 25,180 |
| びん類 | 401 | 456 | 465 | 272 | 575 |
| 紙パック | 2,067 | 1,933 | 1,920 | 1,626 | 1,391 |
| ダンボール | 64,086 | 68,097 | 63,024 | 67,747 | 67,278 |
| 新聞紙・雑誌 | 114,825 | 115,876 | 120,133 | 116,017 | 109,584 |
| ペットボトル | 4,102 | 4,212 | 4,440 | 4,671 | 5,308 |
| 小型家電 | - | - | - | - | 959 |
| 合計 | 213,971 | 221,215 | 225,035 | 229,090 | 216,998 |

(2) 生ごみコンポスト容器の助成

平成3年度より生ごみコンポスト容器の購入助成を実施しています。助成金額は1基あたり3,000円で、1世帯あたりの助成基数は2基となっています。助成を受けて購入した生ごみコンポスト容器は、10年間使用した後に新しいものに更新することができます。

表 4-6 生ごみコンポスト容器助成実績

(単位：基)

| 区分 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 助成基数 | 8 | 7 | 6 | 2 | 6 |
| 累計基数 | 772 | 779 | 785 | 787 | 793 |

(3) 生ごみ電動処理機の助成

平成 16 年度より生ごみ電動処理機の購入助成を実施しています。助成金額は 1 基あたり 20,000 円で、1 世帯あたりの助成基数は 1 基となっています。助成を受けて購入した生ごみ電動処理機は、8 年間使用した後に新しいものに更新することができます。

表 4-7 生ごみ電動処理機助成実績

(単位：基)

| 区分 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 助成基数 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 累計基数 | 90 | 90 | 90 | 90 | 91 |

(4) その他

広報紙等を通じて排出方法について啓発しています。

4 収集運搬

(1) 収集運搬方法

ごみの収集運搬は足寄町が行っています。収集運搬方法を以下に示します。

表 4-8 収集運搬方法

| 区分 | | 内容 |
|-----------|------|--|
| 収集区域 | | 行政区域内全域 市街地：6 地区 農村部：3 地区 |
| ステーション設置数 | | 市街地：549 箇所 農村部：293 箇所 計：842 箇所 |
| 収集主体 | | 委託方式 |
| 収集作業人数 | | 13 名 |
| 収集車両 | | パッカー車：3 台 平ボディ車：4 台 |
| 収集頻度 | 資源ごみ | 市街地：1 回/週 農村部：2 回/月 |
| | 生ごみ | 市街地：2 回/週（1 回/週の週あり） 農村部：2 回/週（1 回/週の週あり） |
| | 埋立ごみ | 市街地：2 回/週（1 回/週の週あり） 農村部：2 回/週（1 回/週の週あり） |
| | 粗大ごみ | 市街地：1 回/月 農村部：1 回/月 |
| | 危険ごみ | 市街地：1 回/週 農村部：2 回/月 |

(2) 分別区分と排出方法

ごみの分別区分と排出方法を以下に示します。

ごみの分別区分は、資源ごみ 12 種類、生ごみ、埋立ごみ、粗大ごみ、危険ごみ 2 種類の計 17 種類です。

生ごみ及び埋立ごみは、それぞれ指定袋を購入して排出します。粗大ごみは、電話での申し込み制となっており、1 枚 200 円のごみ処理券を貼付して排出します。

事業系ごみについては、銀河クリーンセンターに直接搬入するか、許可業者に依頼して運搬することとしており、10kg あたり 120 円の手数料を徴収します。

小動物を搬入する場合は 1 頭につき 1 枚の処理券を必要とします。

表 4-9 分別区分と排出方法

| 区分 | | 主な品目 | 排出方法 |
|----------|-----------|--|---------------------|
| 資源 ごみ | ①金属類 | やかん、なべ、金属製のフタなど ※1m以上または15kg以上のものは粗大ごみ ※包丁などの刃物は危険ごみ | 透明袋で排出 |
| | ②缶類 | アルミ缶、スチール缶、お茶・のりの缶 | 透明袋で排出 |
| | ③びん類 | しょう油、お酒、ビール、ジュースなどのガラス製の容器など ※割れたびんは危険ごみ | 透明袋で排出 |
| | ④紙パック | 牛乳パックなどの紙製飲料容器 ※アルミ箔の貼ってあるものはその他紙製容器類 | 透明袋もしくは梱包して排出 |
| | ⑤ダンボール | ダンボール | 透明袋もしくは梱包して排出 |
| | ⑥新聞紙・雑誌 | 新聞紙、雑誌、チラシ | 透明袋もしくは梱包して排出 |
| | ⑦その他紙製容器類 | 紙箱類、紙缶・カップ類、フタ類、封筒類、紙袋類、包装紙類など | 透明袋で排出 |
| | ⑧ペットボトル | ペットボトル（キャップは取って排出） | 透明袋で排出 |
| | ⑨プラスチック類 | カップ・パック類、ボトル類、トレイ類、チューブ類、ポリ袋・ラップ類、発泡スチロール、プラスチックのフタ類など | 透明袋もしくは梱包して排出 |
| | ⑩木くず | 剪定枝、割り箸、草、落ち葉など ※1m以上は粗大ごみ | 透明袋もしくは梱包して排出 |
| | ⑪衣類 | 古着、タオルなど ※雑巾、軍手、靴下、下着は埋立ごみ | 透明袋で排出 |
| ⑫廃食用油 | 廃食用油 | 中の見える容器（ペットボトルなど）に入れて排出 | |
| ⑬生ごみ | | 生ごみ、卵の殻、貝殻、茶殻など | 生ごみ用指定袋（青の文字の袋）で排出 |
| ⑭埋立ごみ | | 靴、たばこの吸い殻、使い捨ておむつ、燃えがらなど | 埋立ごみ用指定袋（赤の文字の袋）で排出 |
| ⑮粗大ごみ | | タンス、ソファ、じゅうたんなど（長さ1mもしくは重さ15kg以上のもの） | 電話での申し込み制 |
| 危険 ごみ | ⑯危険ごみ | 割れたガラス、包丁類、スプレー缶など | 「危険」と書いて透明袋で排出 |
| | ⑰有害ごみ | 蛍光灯、乾電池、電球、体温計など | 「有害」と書いて透明袋で排出 |

表 4-10 収集対象外品目

| 区分 | 品目 |
|-----------|--|
| リサイクル家電 | テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、衣類乾燥機 |
| パソコン | パソコン |
| 事業所・農業用ごみ | 農薬、オイル、ガスボンベ、タイヤ、バッテリー、消火器、家庭用灯油タンク、スクーター、仏壇など |
| 処理困難なもの | |
| 産業廃棄物 | |

表 4-11 生ごみ、埋立ごみ指定袋購入金額

| 区分 | 購入金額 |
|---------|---------|
| 5 リットル | 250 円 |
| 10 リットル | 350 円 |
| 20 リットル | 600 円 |
| 30 リットル | 900 円 |
| 45 リットル | 1,200 円 |

※10 枚セットの金額

※5 リットルは生ごみ用のみ

5 中間処理

(1) リサイクルプラザ

リサイクルプラザは、破碎施設・資源化施設・ストックヤードから構成され、資源ごみ・粗大ごみ・危険ごみを処理します。

破碎施設では、粗大ごみの破碎選別処理を行います。

資源化施設では、資源ごみのうち、缶類・ペットボトル・その他プラスチック類の圧縮処理、木くずの破碎処理を行います。

ストックヤードでは、圧縮処理した成型品や、その他の資源ごみ・危険ごみの一時保管を行います。

リサイクルプラザの概要、平成 25 年度～平成 29 年度の過去 5 年間の資源ごみ資源化量実績を以下に示します。(資源化量実績は、本別町・足寄町・陸別町の合計)

表 4-12 リサイクルプラザの概要

| | |
|------|--|
| 設置主体 | 池北三町行政事務組合 |
| 所在地 | 足寄郡足寄町中足寄 126 番地 |
| 建築面積 | リサイクルプラザ : 1,280m ² ストックヤード : 470m ² |
| 処理量 | 31 t /5h |
| 竣工 | 平成 14 年 12 月 |
| 設備内容 | 計量機 : ロードセル方式、最大秤量 20 t 破碎機 : せん断式 選別装置 : 電磁吊下げ、能力 3.1 t/h 缶類選別圧縮機 : 油圧二方締、能力 0.2 t/h その他プラ減容機 : 油圧一方締、能力 0.5 t/h ペットボトル減容機 : 一方向締押、能力 0.5 t/h 木材粉碎専用機 : 粉碎式、能力 3.0m ³ /h |

表 4-13 資源ごみ資源化量実績

(単位：t/年)

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 廃プラ製品 | | 276.88 | 248.65 | 263.72 | 274.72 | 288.30 |
| 紙製容器 | | 24.37 | 35.59 | 39.43 | 18.69 | 14.12 |
| プレス品 | スチール | 5.22 | 4.03 | 4.32 | 4.32 | 3.62 |
| | アルミ | 0.20 | 0.35 | 0.29 | 0.35 | 0.34 |
| | ペットボトル | 2.12 | 2.10 | 1.97 | 1.87 | 2.06 |
| ダンボール | | 2.93 | 2.19 | 2.69 | 3.74 | 2.43 |
| 新聞 | | 3.26 | 2.87 | 3.34 | 3.66 | 2.17 |
| 雑誌 | | 2.41 | 2.03 | 2.87 | 2.60 | 2.03 |
| 紙パック | | 0.02 | 0.01 | 0.02 | 0.03 | 0.01 |
| びん類 | 茶色 | 101.02 | 92.56 | 86.30 | 91.90 | 74.54 |
| | 透明 | 72.66 | 74.36 | 66.76 | 68.50 | 72.40 |
| | その他 | 38.47 | 34.33 | 30.93 | 36.94 | 24.16 |
| 金属 | 廃家電 | 51.66 | 36.56 | 43.89 | 48.62 | 49.06 |
| | 金属類 | 18.19 | 24.81 | 15.90 | 37.53 | 22.39 |
| 衣類 | ウエス | 5.25 | 5.24 | 4.36 | 4.04 | 0 |
| | その他 | 27.60 | 12.38 | 10.98 | 10.10 | 14.86 |
| 電池類 | | 6.71 | 5.43 | 5.39 | 4.12 | 6.94 |
| 蛍光管 | | 4.53 | 3.76 | 3.33 | 2.47 | 4.17 |
| 木製品 | | 0.39 | 0.21 | 1.22 | 0.29 | 0.60 |
| 発泡スチロール圧縮品 | | 4.83 | 5.62 | 5.62 | 4.80 | 3.78 |
| 有価瓶 | | 2.50 | 8.74 | 13.03 | 10.88 | 11.52 |
| 合計 | | 651.22 | 601.82 | 606.36 | 630.17 | 599.50 |

(2) 高速堆肥化施設

高速堆肥化施設では、生ごみを微生物で発酵処理して堆肥化しています。製造した堆肥は、町民に提供しています。

高速堆肥化施設の概要、平成25年度～平成29年度の過去5年間の堆肥化処理量実績を以下に示します。(堆肥化処理量実績は、本別町・足寄町・陸別町の合計)

表 4-14 高速堆肥化施設の概要

| | |
|------|--|
| 設置主体 | 池北三町行政事務組合 |
| 所在地 | 足寄郡足寄町中足寄 126 番地 |
| 処理方式 | パドル攪拌式 (円筒型)、3.0 t × 4 基 |
| 建築面積 | 704m ² |
| 処理量 | 12 t / 日 |
| 竣工 | 平成 14 年 12 月 |
| 設備内容 | 受入ホッパ : 貯留容量 12.7m ³ エプロンコンベア : 運搬量 3.15 t / h 破砕選別機 : 遠心型、能力 3.0 t / h オートフィーダ : 能力 11.2m ² × 2 基 製品選別機 : 振動ふるい、能力 1.0 t / h 脱臭設備 : 活性炭吸着塔 |

表 4-15 堆肥化処理量実績

(単位: t / 年)

| 区分 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | |
|--------|----------|----------|----------|--------|----------|--------|
| 生ごみ処理量 | 1,062.12 | 1,054.48 | 1,025.57 | 961.28 | 1,003.26 | |
| 堆肥製造量 | 242.32 | 238.46 | 224.26 | 216.04 | 222.44 | |
| 堆肥運搬量 | 本別町 | 124.75 | 123.49 | 108.08 | 106.89 | 112.37 |
| | 足寄町 | 101.96 | 100.54 | 102.57 | 100.08 | 76.53 |
| | 陸別町 | 0 | 0 | 0 | 0.05 | 0 |
| | 計 | 226.71 | 224.03 | 210.65 | 207.02 | 188.90 |

6 最終処分

最終処分場では、埋立ごみ、破碎残渣、資源化処理で生じた残渣・不適物等の埋立処分を行っています。

最終処分場の概要、平成25年度～平成29年度の過去5年間の埋立処分量実績を以下に示します。(埋立処分量実績は、本別町・足寄町・陸別町の合計)

表 4-16 最終処分場の概要

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 設置主体 | 池北三町行政事務組合 |
| 所在地 | 足寄郡足寄町中足寄 126 番地 |
| 埋立面積 | 14,200m ² |
| 埋立容量 | 84,020m ³ |
| 埋立量 | 廃棄物 72,783 t、覆土 24,265 t、計 97,048 t |
| 埋立工法 | 準好気性埋立、サンドイッチ工法 |
| しゃ水工 | 二重遮水シート構造 |
| 浸出水処理方式 | 回転円板+凝集沈殿+砂ろ過 |
| 浸出水処理水量 | 40m ³ /日 |
| 放流水質 | BOD20mg/L、SS10mg/L |
| 竣工 | 平成 14 年 12 月 |

表 4-17 埋立処分量実績

(単位：t/年)

| 区分 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 処理残渣 | 1,436.80 | 1,289.56 | 1,375.36 | 1,371.32 | 1,341.65 |
| 前処理残渣 | 112.64 | 113.84 | 105.68 | 111.53 | 104.87 |
| 計 | 1,549.44 | 1,403.40 | 1,481.04 | 1,482.85 | 1,446.52 |
| 覆土 | 1,083.10 | 951.10 | 1,687.10 | 1,162.60 | 1,213.65 |
| 合計 | 2,632.54 | 2,354.50 | 3,168.14 | 2,645.45 | 2,660.17 |

7 ごみ処理の課題

(1) ごみの減量化

ごみの排出量原単位は、国及び北海道の実績値を下回っています。また、国及び北海道の数値目標をすでに達成しています。しかしながら、資源循環型社会の達成に向け、ごみの減量化をさらに推進していくことが求められます。町民及び事業者のごみ排出削減に関する意識をより一層高めてごみ減量化を推進させるため、継続的に施策を展開していくことが必要です。

(2) 町民・事業者・行政の協働

これまで町民・事業者との協働により環境負荷の少ない資源循環型のまちづくりに取り組んできました。今後さらなる環境負荷低減及び循環型社会形成に向けて協働を継続し、町民や事業者が自主的にごみ減量化やリサイクルに取り組むことができる環境づくりを進めることが必要です。

(3) ごみ処理体制変更への対応

これまでは、銀河クリーンセンターにおいてごみの適正処理を行ってきましたが、2019年度からごみ処理体制を見直し、排出されるごみの一部を十勝圏複合事務組合の処理施設において広域処理する計画です。これに伴い、ごみの分別区分や収集運搬体制及び処理体制の見直しが生じます。ごみの適正な分別がなされるよう町民・事業者へのごみ分別区分変更の周知徹底、効率的かつ経済的な収集運搬体制づくりが必要です。

(4) 大規模災害に備えた処理体制の整備

近年、東日本大震災や熊本地震、北海道胆振東部地震などの大規模災害が相次いで発生していることから、大規模災害時においても安定したごみ処理が行える体制を整備する必要があります。

1 基本方針

足寄町ではこれまで、基本方針「資源循環型のまちづくりを目指して」を掲げて、発生抑制と排出抑制の推進、資源化の推進、適正処理の確保の3つの施策に取り組んできました。

引き続きこれら施策に取り組み、資源循環型のまちづくりを目指します。

優先順位としては、第1にごみの発生抑制と排出抑制（リフューズ Refuse：不要なものを断る、リデュース Reduce：ごみになるものを減らす、リユース Reuse：使えるものを繰り返し使う）に取り組み、第2に排出されたごみに対して資源化（リサイクル Recycle：ごみを資源化する）を推進し、そして排出抑制やリサイクルが困難なごみに対して適正な処理を行います。

適正処理の確保をさらに充実させるため、2019年度からごみ処理体制を見直し、排出されるごみの一部を十勝圏複合事務組合の処理施設において広域処理します。これに伴い、ごみの分別区分や収集運搬体制及び処理体制の見直しが生じますが、町民・事業者・行政がそれぞれの役割分担と責務のもと、具体的な方向を提示し、資源循環型のまちづくりを目指します。

【基本方針】 資源循環型のまちづくりを目指して

1 発生抑制と排出抑制の推進

2 資源化の推進

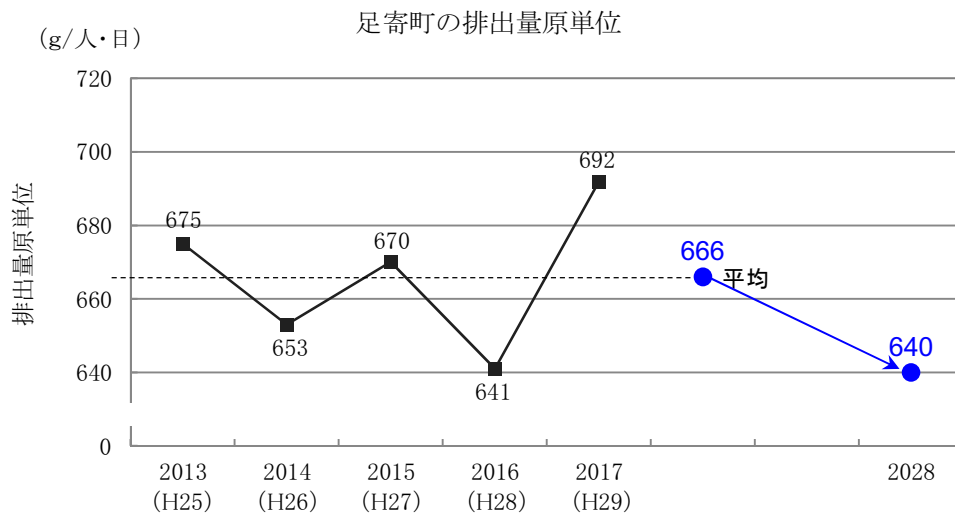
3 適正処理の確保

2 数値目標

資源循環型社会の構築に向けて、ごみの排出量原単位について具体的な数値目標を設けます。そして、町民・事業者とその目標を共有し、それぞれの役割を果たすことにより数値目標の達成を目指します。

現在の排出量原単位は、第四次循環型社会形成推進基本計画及び北海道廃棄物処理計画における数値目標をすでに達成していますが、さらなるごみ排出削減を図ります。

【数値目標】 排出量原単位 640 g/人・日（2028年度）



3 町民・事業者・行政の役割

(1) 町民の役割

町民は、ごみの排出者であるという自覚・責任をもち、自らの生活様式を見直し、ごみ排出抑制やリサイクルに努めることが大切です。そして、ごみ問題に対する関心と理解を深め、循環型のまちづくりを推進する取り組みに積極的に参加・協力することが求められます。

(2) 事業者の役割

事業者は、事業活動に伴って生じるごみについて、排出抑制に努めたうえで自らの責任において適正に処理する必要があります。また、生産・製造・サービス提供などあらゆる過程において、製品やサービスがごみとならないよう配慮することが求められます。

(3) 行政の役割

町は、一般廃棄物の処理責任者として、ごみの分別徹底、ごみの適正処理を推進します。また、町民や事業者がごみ排出抑制やリサイクルに向けた行動を円滑に行えるよう、情報提供などによる啓発や自主・自発的活動の促進に努め、町民・事業者との協働による資源循環型まちづくりに積極的に取り組みます。

第6章

ごみ排出量の推計

2019年度からごみの分別区分は、燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ・資源ごみ・危険ごみの5区分となります。これに伴い、生ごみ、資源ごみとして分別している木くず及び衣類は燃やすごみとなります。また、埋立ごみのうち燃やせるものは燃やすごみ、燃やせないものは燃やさないごみとなります。

この分別区分に基づく2019年度～2028年度のごみ排出量の見込みを以下に示します。なお、危険ごみは燃やさないごみに含まれています。

表 6-1 ごみ排出量推計

(単位：t/年)

| 区分 | | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | |
|------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 計画収集 | 資源ごみ | 438 | 431 | 423 | 416 | 408 | |
| | 燃やすごみ | 716 | 705 | 692 | 681 | 668 | |
| | 燃やさないごみ | 136 | 134 | 132 | 130 | 127 | |
| | 粗大ごみ | 32 | 31 | 31 | 30 | 30 | |
| | 計 | 1,322 | 1,301 | 1,278 | 1,257 | 1,233 | |
| 直接搬入 | 家庭系 | 資源ごみ | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | 燃やすごみ | 16 | 16 | 16 | 15 | 15 |
| | | 燃やさないごみ | 33 | 31 | 31 | 31 | 29 |
| | | 粗大ごみ | 22 | 22 | 21 | 21 | 21 |
| | | 計 | 81 | 79 | 78 | 77 | 75 |
| | 事業系 | 資源ごみ | 29 | 29 | 28 | 27 | 27 |
| | | 燃やすごみ | 198 | 195 | 191 | 189 | 186 |
| | | 燃やさないごみ | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | 粗大ごみ | 10 | 10 | 10 | 9 | 9 |
| | | 計 | 243 | 240 | 235 | 231 | 228 |
| 合計 | 資源ごみ | 477 | 470 | 461 | 453 | 445 | |
| | 燃やすごみ | 930 | 916 | 899 | 885 | 869 | |
| | 燃やさないごみ | 175 | 171 | 169 | 167 | 162 | |
| | 粗大ごみ | 64 | 63 | 62 | 60 | 60 | |
| | 計 | 1,646 | 1,620 | 1,591 | 1,565 | 1,536 | |

| 区分 | | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 | |
|------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 計画収集 | 資源ごみ | 401 | 394 | 387 | 380 | 373 | |
| | 燃やすごみ | 656 | 645 | 633 | 621 | 610 | |
| | 燃やさないごみ | 125 | 123 | 120 | 118 | 116 | |
| | 粗大ごみ | 29 | 29 | 28 | 28 | 27 | |
| | 計 | 1,211 | 1,191 | 1,168 | 1,147 | 1,126 | |
| 直接搬入 | 家庭系 | 資源ごみ | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| | | 燃やすごみ | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 |
| | | 燃やさないごみ | 30 | 29 | 28 | 28 | 27 |
| | | 粗大ごみ | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 |
| | | 計 | 74 | 73 | 71 | 70 | 69 |
| | 事業系 | 資源ごみ | 27 | 26 | 26 | 25 | 25 |
| | | 燃やすごみ | 181 | 178 | 175 | 173 | 169 |
| | | 燃やさないごみ | 6 | 6 | 5 | 5 | 5 |
| | | 粗大ごみ | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 |
| | | 計 | 223 | 219 | 215 | 212 | 207 |
| 合計 | 資源ごみ | 437 | 429 | 422 | 414 | 407 | |
| | 燃やすごみ | 852 | 838 | 822 | 808 | 793 | |
| | 燃やさないごみ | 161 | 158 | 153 | 151 | 148 | |
| | 粗大ごみ | 58 | 58 | 57 | 56 | 54 | |
| | 計 | 1,508 | 1,483 | 1,454 | 1,429 | 1,402 | |

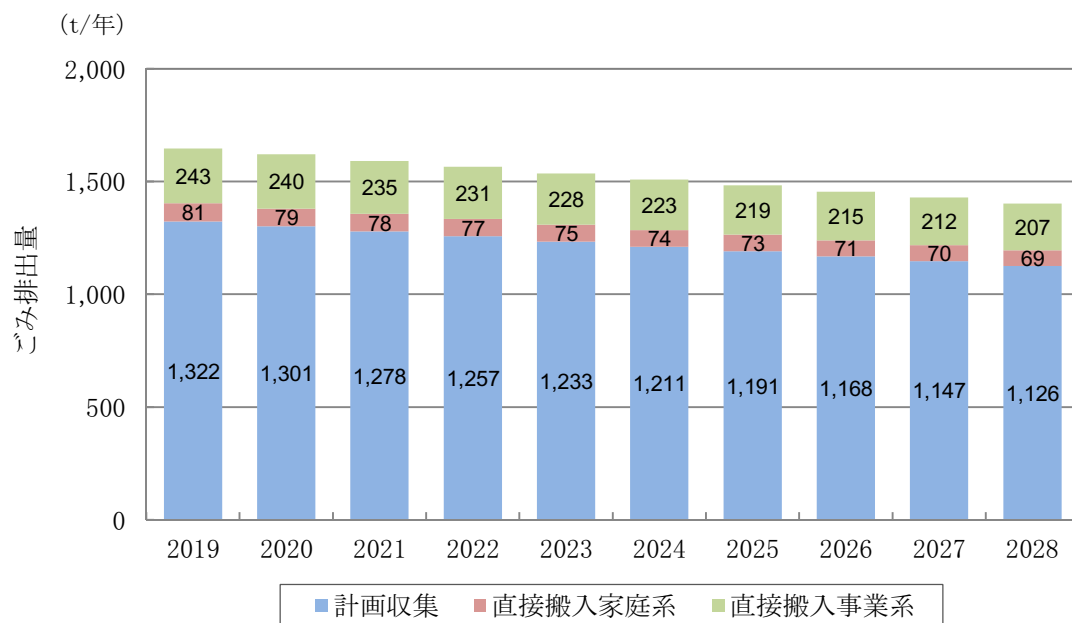


図 6-1 ごみ排出量推計

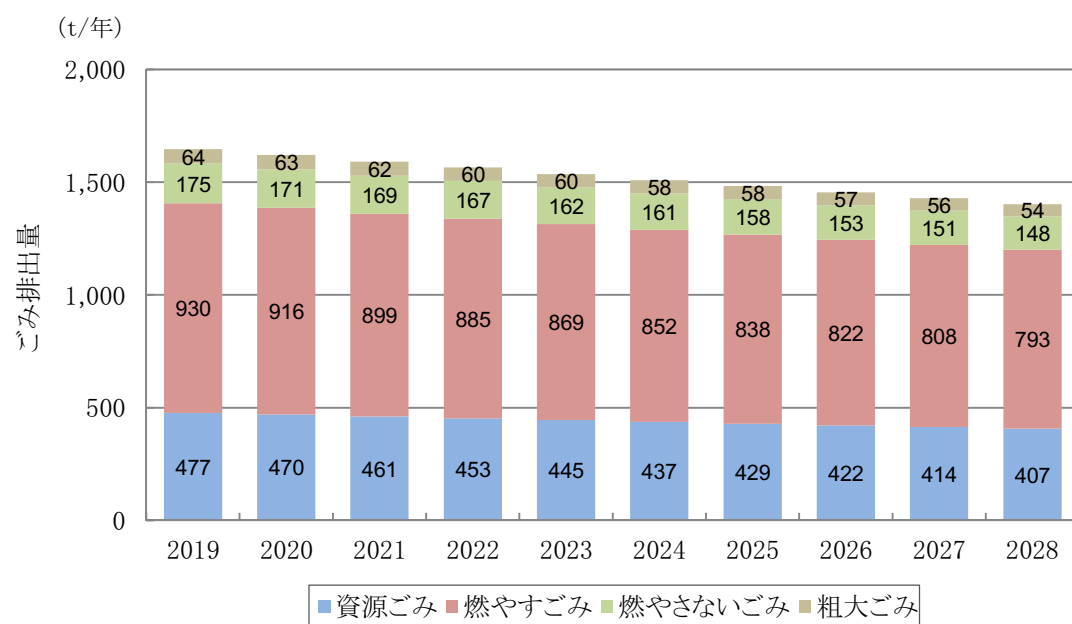


図 6-2 ごみ排出量推計（分別区分別）

1 施策の体系

計画の基本方針の達成に向けて、次の施策を推進します。

【基本方針】 資源循環型のまちづくりを目指して**1 発生抑制と排出抑制の推進**

- ① 啓発活動による意識改革
- ② 集団回収への支援
- ③ 生ごみの減量化の推進
- ④ 生ごみの自家処理の推進
- ⑤ 事業系ごみの自家処理・リサイクルの推進
- ⑥ ごみ処理費用負担の検討

2 資源化の推進

- ① 資源ごみの資源化の継続
- ② 燃やさないごみ・粗大ごみからの資源回収

3 適正処理の推進

- ① ごみの広域処理
- ② 災害廃棄物の処理体制の確立

2 町民・事業者・行政の行動指針

資源循環型のまちづくりに向け、これまでの大量消費・大量廃棄の社会構造そのものを変えていく必要があります、町民・事業者・行政が身近なところから取り組みを実践することが求められます。そのための具体的な行動指針を定め、各主体が積極的に取り組みます。

(1) 町民の取り組み

- 大量消費・大量廃棄のライフスタイルを見直し、ごみを出さない工夫をします。
- 商品の購入後、すぐに使用しなくなる可能性のあるものは購入を自粛します。
- 商品の購入後は、修理等をしてできる限り長く大切に使用します。
- スーパー等の過剰包装を辞退するとともに、買い物かごや買い物袋等を持参してレジ袋の使用自粛に努めます。
- フリーマーケットや不用品交換の場に積極的に参加します。
- 生ごみ堆肥化容器や電動生ごみ処理機を積極的に使用し、生ごみの堆肥化に努めます。
- 自治会等が実施する集団回収に参加します。
- リターナブルびんの販売店への返却を推進します。
- 収集カレンダー等に基づく排出に努め、資源物の分別収集を徹底します。

(2) 事業者の取り組み

- 使い捨て製品の販売を抑制し、詰め替え製品の販売を促進するよう努めます。
- 過剰包装を抑制し、包装は必要最小限にします。
- 商品がごみとなった場合にその処理が困難とならないように努めます。
- 再生利用可能な商品の販売に努めます。
- 従業員に対する研修会や講習会を実施し、ごみに対する意識の転換を図ります。
- 自家処理システムを確立するよう努めます。
- 再生品の普及に向け、表示や陳列等の工夫をします。
- 紙類・ダンボール・発泡スチロールトレイ等を多く発生する事業者は、積極的にそのリサイクルを図るようにします。

(3) 行政の取り組み

- 町民・事業者・行政の役割を明確にし、ごみ排出抑制・再資源化に関する施策の推進に努めます。
- 率先してごみ排出抑制・リサイクル、再生品の利用に取り組みます。
- 再生品の利用拡大に向けた啓発やフリーマーケット等の各種イベントを開催します。
- 町民・事業者の取り組み促進に向け、環境教育や学習等の普及啓発の充実に努めます。
- 町民や事業者が行うごみ減量化や再資源化の取り組みに対する支援や情報提供を行います。

3 発生抑制と排出抑制の推進

(1) 啓発活動による意識改革

広報紙やホームページを活用してごみ発生抑制・排出抑制等に関する情報を発信し、町民・事業者のごみに対する意識の向上を図ります。

ごみ発生抑制や排出抑制の推進、ごみ排出マナーの向上を図るため、町民向け・事業者向けの啓発用冊子を作成します。

自治会やその他の各種団体が開催する勉強会等に町の職員を参加させ、ごみに関する啓発活動を行います。

(2) 集団回収への支援

自治会やその他の団体が自主的に資源物の回収を行う集団回収は、ごみの減量化に効果があるばかりでなく、地域住民への啓発効果が期待されます。このため、引き続き、集団回収に対する支援を行います。

(3) 生ごみの減量化の推進

家庭から排出される生ごみには、食べ残しや手つかずの食品といった食品ロスが多く含まれており、食べ切りや食材の使い切りによる食品ロスの削減は、食べ物を無駄にしないということだけでなく、ごみの削減にもつながります。また、生ごみには、水分が多く含まれており、生ごみを捨てる前に乾燥させたり水切りを行うことで、生ごみの水分を減らすことができます。このため、食品ロス削減や水切りなどの行動実践に向けた啓発活動を行います。

(4) 生ごみの自家処理の推進

生ごみの排出削減には、生ごみ堆肥化容器や生ごみ電動処理機による自家処理が有効であることから、引き続き購入助成を行い、普及促進に努めます。

(5) 事業系ごみの自家処理・リサイクルの推進

事業系ごみは、各事業所の業務により同じ性状のごみが多量に排出される特徴があります。生ごみは、業務用生ごみ処理機の設置による自家処理を推進します。紙類は、古紙再生業者へ引き渡すことによるリサイクルを推進します。

(6) ごみ処理費用負担の検討

ごみ処理には多くの費用を要しますが、その費用の公平な負担を求めためごみ処理有料化を実施しています。今後は、ごみ処理体制の変更や消費税引き上げ等に伴うごみ処理費用の変動が見込まれることから、適正な処理負担について検討していきます。

4 資源化の推進

(1) 資源ごみの資源化の継続

資源ごみは、現在 12 種類の分別収集を行い、一部は資源回収業者が資源物の回収を行い、その他は銀河クリーンセンターで資源物の回収を行っています。

2019 年度からは、木くず及び衣類を燃やすごみ、スプレー缶を資源として分別収集し、資源ごみは 11 種類の分別収集となりますが、分別収集した資源ごみは、引き続き銀河クリーンセンターにおいて資源物の回収を行います。

(2) 燃やさないごみ・粗大ごみからの資源回収

燃やさないごみ・粗大ごみは、2019 年度から十勝圏複合事務組合のくりりんセンターに搬入して処理しますが、この施設において、燃やさないごみ・粗大ごみを破碎して減容化した後に機械選別を行い、鉄及びアルミの回収を行います。

5 適正処理の確保

(1) ごみの広域処理

2019年度から十勝圏複合事務組合のくりりんセンターにおいて、燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ・危険ごみの効率的かつ適正な処理を行っていきます。

(2) 災害廃棄物の処理体制の確立

大規模な地震や水害等が発生した際には、災害廃棄物の処理を適正かつ迅速に行い、早期の生活環境の回復を図る必要があります。このため、関係機関等と連携しながら災害廃棄物処理計画を策定し、災害時の処理体制の確立に努めます。

1 ごみ処理体制

ごみの分別区分は、資源ごみ・燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ・危険ごみの5区分です。

家庭から排出されたごみの収集は足寄町が実施します。収集した資源ごみの一部は資源回収業者が資源物の回収を行い、その他は銀河クリーンセンターに搬入して資源物の回収を行います。燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ・危険ごみは、十勝圏複合事務組合のくりりんセンターに搬入して中間処理を行います。

住民あるいは事業者が直接持ち込むごみは、資源ごみは銀河クリーンセンター、燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ・危険ごみはくりりんセンターにおいて中間処理します。

くりりんセンターでは、燃やすごみの焼却処理、燃やさないごみ・粗大ごみの破碎選別処理を行います。これら中間処理で生じる残渣は、十勝圏複合事務組合のうめ〜るセンター美加登において最終処分します。

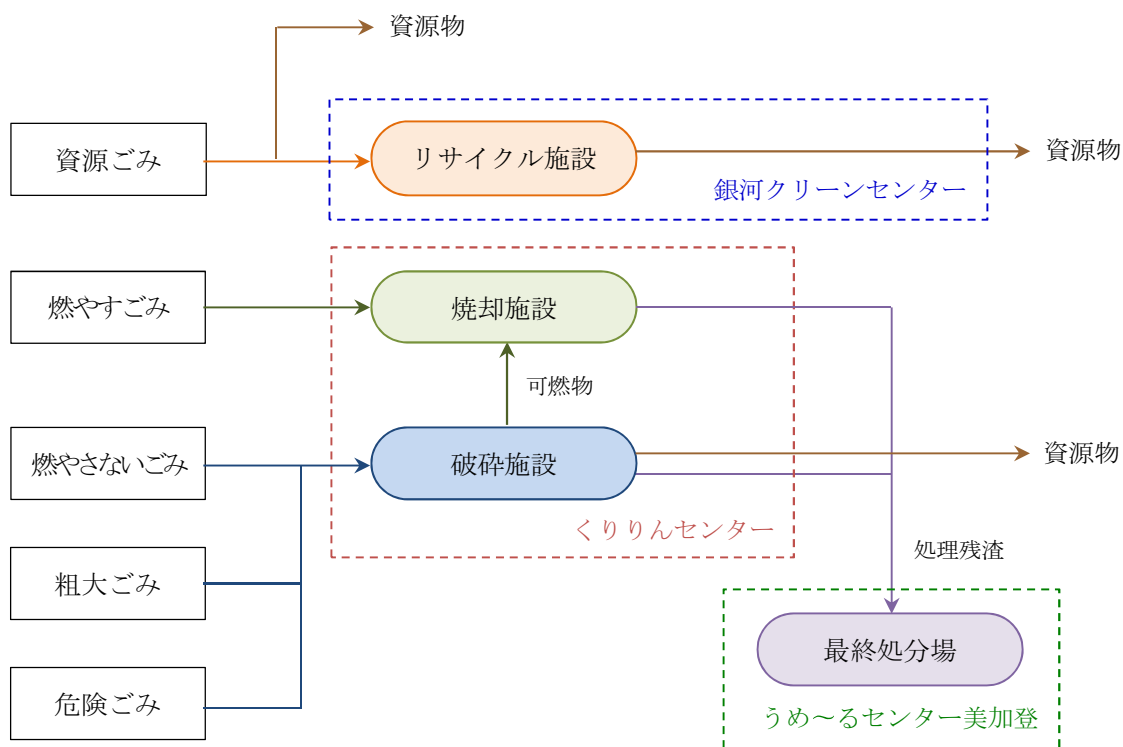


図 8-1 ごみ処理フロー

2 収集運搬計画

(1) 収集運搬の範囲

収集運搬する区域は、足寄町の行政区域内を対象とします。

収集運搬するごみの種類は、家庭系ごみを対象とします。事業系ごみについては、現状どおり施設へ直接搬入するか、もしくは許可業者に委託することを原則とします。

(2) ごみの分別区分

ごみの分別区分は、資源ごみ 11 種類、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、危険ごみ 2 種類の計 16 種類とします。直接施設へ持ち込むごみについても同様の区分とします。

表 8-1 ごみの分別区分

| 区分 | | 主な品目 |
|----------|---------------|---|
| 資源 ごみ | ①金属類 | やかん、なべ、金属製のフタなど |
| | ②缶類 | アルミ缶、スチール缶、お茶・のりの缶 |
| | ③びん類 | しょう油、お酒、ビール、ジュースなどのガラス製の容器など |
| | ④紙パック | 牛乳パックなどの紙製飲料容器 |
| | ⑤ダンボール | ダンボール |
| | ⑥新聞紙・雑誌 | 新聞紙、雑誌、チラシ |
| | ⑦紙製容器包装・その他紙類 | 紙箱類、紙缶・カップ類、フタ類、封筒類、紙袋類、包装紙類など |
| | ⑧ペットボトル | ペットボトル |
| | ⑨プラスチック製容器包装 | カップ・パック類、ボトル類、トレイ類、チューブ類、ポリ袋、発泡スチロール、プラスチックのフタ類など |
| | ⑩スプレー缶 | スプレー缶 |
| | ⑪廃食用油 | 廃食用油 |
| ⑫燃やすごみ | | 生ごみ、紙類、布類、木くずなど |
| ⑬燃やさないごみ | | プラスチック製品、皮革製品など |
| ⑭粗大ごみ | | タンス、ソファ、じゅうたんなど |
| 危険 ごみ | ⑮危険ごみ | 割れたガラス、包丁類など |
| | ⑯有害ごみ | 蛍光灯、乾電池、電球、体温計など |

(3) 収集運搬の実施主体

収集運搬は、町の委託業者が実施します。

(4) 収集運搬方法

収集運搬方法は、ステーション方式とします。

収集車両は、パッカー車及び平ボディ車とします。

(5) 直接持ち込みごみの運搬

住民あるいは事業者が直接持ち込む資源ごみは、銀河クリーンセンターへの搬入とします。

また、燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ・危険ごみは、くりりんセンターへの搬入あるいは銀河クリーンセンターへの搬入のいずれかとします。銀河クリーンセンターに搬入されたごみは、大型車両に積み替えてくりりんセンターに搬入します。

3 中間処理計画

(1) 資源化処理

銀河クリーンセンターの資源化施設において資源ごみの処理を行います。

(2) 焼却処理

十勝圏複合事務組合のくりりんセンターにおいて燃やすごみの焼却処理を行います。

表 8-2 くりりんセンター焼却施設の概要

| | |
|------|---|
| 設置主体 | 十勝圏複合事務組合 |
| 所在地 | 帯広市西 24 条北 4 丁目 1 番地 5 |
| 処理能力 | 330 t/日 (110 t/日×3 炉) |
| 炉形式 | 全連続燃焼式ストーカ |
| 主要設備 | 受入供給設備：計量機 3 基、ピットアンドクレーン方式 排ガス処理設備：ろ過式集じん方式＋乾式消石灰噴霧方式 ガス冷却設備：過熱器エコノマイザ付単胴自然循環ボイラ 余熱利用：発電方式＋給湯・冷暖房利用方式 通風設備：平衡通風方式 飛灰処理設備：キレート注入固化方式 |

(3) 破碎処理

十勝圏複合事務組合のくりりんセンターにおいて燃やさないごみ及び粗大ごみの破碎選別処理を行います。

表 8-3 くりりんセンター破碎施設の概要

| | |
|------|---|
| 設置主体 | 十勝圏複合事務組合 |
| 所在地 | 帯広市西 24 条北 4 丁目 1 番地 5 |
| 処理能力 | 110 t/日 (破碎 80 t/5h、圧縮 30 t/5h) |
| 主要設備 | 受入供給設備：ピットアンドクレーン方式 破碎設備：低速二軸回転方式＋堅型高速回転方式 搬送設備：コンベア方式 選別設備：磁気選別方式＋回転篩選別方式＋風力選別方式＋アルミ選別機 集塵設備：機械式集じん方式＋ろ過式集じん方式 |

(4) 現有施設の運転終了

銀河クリーンセンターの高速堆肥化施設及び破碎施設は、十勝圏複合事務組合のくりりんセンターでの処理移行に伴い、平成 31 年 3 月末で運転を終了します。

(5) 新中間処理施設の整備

十勝圏複合事務組合のくりりんセンターは、平成 8 年 10 月の施設稼働後 22 年が経過していることから、施設の耐用年数を考慮して新たな中間処理施設の整備を検討していきます。

4 最終処分計画

(1) 埋立処分

十勝圏複合事務組合のうめ～るセンター美加登において中間処理で生じる残渣の埋立処分を行います。

表 8-4 うめ～るセンター美加登の概要

| | |
|--------|---|
| 設置主体 | 十勝圏複合事務組合 |
| 所在地 | 中川郡池田町字美加登 279 番 10 |
| 総面積 | 165,908.51m ² |
| 埋立面積 | 27,029m ² |
| 埋立容量 | 311,200m ³ (廃棄物 252,000m ³ 、覆土 59,200m ³) |
| 処分場形式 | クローズド被覆型処分場 |
| 埋立工法 | 準好気性埋立構造 |
| 遮水設備 | 二重遮水シート構造 (保護マット、遮水シート、中間保護材、遮水シート、保護マット) |
| 水処理設備 | 浸出処理水循環利用方式 逆浸透膜 (RO膜) 処理 処理量 25m ³ /日 |
| 埋立計画期間 | 15 年間 |

(2) 現有施設の埋立終了

銀河クリーンセンターの最終処分場は、十勝圏複合事務組合のうめ～るセンター美加登での埋立処分移行に伴い、平成 31 年 3 月末で埋立処分を終了します。埋立終了後は、植生・植栽及び雨水排水設備等を整備し、周辺環境に十分配慮した跡地利用計画を行います。

資 料 編

目 次

| | | | |
|------|---------|-------|------|
| 資料 1 | ごみ排出量実績 | | 資料 1 |
| 資料 2 | ごみ排出量推計 | | 資料 5 |

1 年度別ごみ排出量実績

平成 25 年度～平成 29 年度の過去 5 年間のごみ排出量実績を以下に示します。

表 1-1 ごみ排出量実績(1)

| 分別区分 | 平成25年度 | | | | | | | 合計 |
|------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| | 組合搬入・処理 | | | 町内搬入・処理 | | | | |
| | 計画収集 | 直接搬入 | 計 | 町資源化 | 集団回収 | 計 | | |
| 生ごみ | 323,960 | 106,290 | 430,250 | | | | 430,250 | |
| 埋立ごみ | 376,690 | 143,260 | 519,950 | | | | 519,950 | |
| 粗大ごみ | 34,030 | 32,520 | 66,550 | | | | 66,550 | |
| 危険ごみ | 21,930 | 11,740 | 33,670 | | | | 33,670 | |
| 有害ごみ | 3,020 | 915 | 3,935 | | | | 3,935 | |
| 動物 | 4,283 | 2,817 | 7,100 | | | | 7,100 | |
| その他 | 10 | 38,020 | 38,030 | | | | 38,030 | |
| 資源ごみ | 金属類 | 6,550 | 3,270 | 9,820 | 34,902 | 2,055 | 36,957 | 46,777 |
| | 缶類 | 70 | 2,470 | 2,540 | 5,426 | 26,435 | 31,861 | 34,401 |
| | びん類 | 87,200 | 5,430 | 92,630 | | 401 | 401 | 93,031 |
| | 紙パック | | | | 2,687 | 2,067 | 4,754 | 4,754 |
| | ダンボール | 90 | 6,080 | 6,170 | 43,470 | 64,086 | 107,556 | 113,726 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | 100,440 | 114,825 | 215,265 | 215,265 |
| | その他紙製容器類 | 100 | 5,090 | 5,190 | 66,890 | | 66,890 | 72,080 |
| | ペットボトル | 20 | 605 | 625 | 18,190 | 4,102 | 22,292 | 22,917 |
| | プラスチック類 | 106,120 | 12,285 | 118,405 | | | | 118,405 |
| | 木くず | 207,190 | 31,950 | 239,140 | | | | 239,140 |
| | 衣類 | 17,110 | 1,620 | 18,730 | 510 | | 510 | 19,240 |
| 廃食用油 | | | | 3,420 | | 3,420 | 3,420 | |
| 計 | 1,188,373 | 404,362 | 1,592,735 | 275,935 | 213,971 | 489,906 | 2,082,641 | |

| 分別区分 | 平成26年度 | | | | | | | 合計 |
|------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| | 組合搬入・処理 | | | 町内搬入・処理 | | | | |
| | 計画収集 | 直接搬入 | 計 | 町資源化 | 集団回収 | 計 | | |
| 生ごみ | 315,750 | 110,830 | 426,580 | | | | 426,580 | |
| 埋立ごみ | 355,970 | 116,345 | 472,315 | | | | 472,315 | |
| 粗大ごみ | 34,980 | 29,710 | 64,690 | | | | 64,690 | |
| 危険ごみ | 21,700 | 9,755 | 31,455 | | | | 31,455 | |
| 有害ごみ | 3,150 | 1,020 | 4,170 | | | | 4,170 | |
| 動物 | 844 | 2,186 | 3,030 | | | | 3,030 | |
| その他 | | | | | | | 0 | |
| 資源ごみ | 金属類 | 6,460 | 3,155 | 9,615 | 31,931 | 2,392 | 34,323 | 43,938 |
| | 缶類 | 0 | 2,465 | 2,465 | 6,019 | 28,249 | 34,268 | 36,733 |
| | びん類 | 82,820 | 4,315 | 87,135 | | 456 | 456 | 87,591 |
| | 紙パック | | | | 13,300 | 1,933 | 15,233 | 15,233 |
| | ダンボール | 420 | 4,985 | 5,405 | 27,530 | 68,097 | 95,627 | 101,032 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | 83,920 | 115,876 | 199,796 | 199,796 |
| | その他紙製容器類 | 320 | 5,355 | 5,675 | 62,040 | | 62,040 | 67,715 |
| | ペットボトル | | 670 | 670 | 20,050 | 4,212 | 24,262 | 24,932 |
| | プラスチック類 | 105,670 | 13,470 | 119,140 | | | | 119,140 |
| | 木くず | 210,280 | 24,070 | 234,350 | | | | 234,350 |
| | 衣類 | 2,480 | 2,235 | 4,715 | 15,095 | | 15,095 | 19,810 |
| 廃食用油 | | 10 | 10 | 3,840 | | 3,840 | 3,850 | |
| 計 | 1,140,844 | 330,576 | 1,471,420 | 263,725 | 221,215 | 484,940 | 1,956,360 | |

表 1-1 ごみ排出量実績(2)

| 分別区分 | | 平成27年度 | | | | | | 合計 |
|------|----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| | | 組合搬入・処理 | | | 町内搬入・処理 | | | |
| | | 計画収集 | 直接搬入 | 計 | 町資源化 | 集団回収 | 計 | |
| 生ごみ | | 306,810 | 108,135 | 414,945 | | | | 414,945 |
| 埋立ごみ | | 358,250 | 118,250 | 476,500 | | | | 476,500 |
| 粗大ごみ | | 31,120 | 37,590 | 68,710 | | | | 68,710 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 19,920 | 13,885 | 33,805 | | | | 33,805 |
| | 有害ごみ | 3,300 | 880 | 4,180 | | | | 4,180 |
| 動物 | | 149 | 676 | 825 | | | | 825 |
| その他 | | 350 | 55,960 | 56,310 | | | | 56,310 |
| 資源ごみ | 金属類 | 5,010 | 4,200 | 9,210 | 32,998 | 5,218 | 38,216 | 47,426 |
| | 缶類 | | 1,700 | 1,700 | 7,138 | 29,835 | 36,973 | 38,673 |
| | びん類 | 83,630 | 9,375 | 93,005 | | 465 | 465 | 93,470 |
| | 紙パック | | | | 2,210 | 1,920 | 4,130 | 4,130 |
| | ダンボール | 185 | 6,260 | 6,445 | 41,570 | 63,024 | 104,594 | 111,039 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | 87,740 | 120,133 | 207,873 | 207,873 |
| | その他紙製容器類 | 135 | 4,285 | 4,420 | 66,090 | | 66,090 | 70,510 |
| | ペットボトル | | 490 | 490 | 20,090 | 4,440 | 24,530 | 25,020 |
| | プラスチック類 | 105,310 | 17,085 | 122,395 | | | | 122,395 |
| | 木くず | 208,600 | 31,095 | 239,695 | | | | 239,695 |
| | 衣類 | 1,370 | 2,555 | 3,925 | 13,171 | | 13,171 | 17,096 |
| 廃食用油 | | 35 | 35 | 3,580 | | 3,580 | 3,615 | |
| 計 | | 1,124,139 | 412,456 | 1,536,595 | 274,587 | 225,035 | 499,622 | 2,036,217 |

| 分別区分 | | 平成28年度 | | | | | | 合計 |
|------|----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| | | 組合搬入・処理 | | | 町内搬入・処理 | | | |
| | | 計画収集 | 直接搬入 | 計 | 町資源化 | 集団回収 | 計 | |
| 生ごみ | | 283,590 | 94,510 | 378,100 | | | | 378,100 |
| 埋立ごみ | | 361,870 | 92,255 | 454,125 | | | | 454,125 |
| 粗大ごみ | | 34,560 | 31,960 | 66,520 | | | | 66,520 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 19,050 | 9,540 | 28,590 | | | | 28,590 |
| | 有害ごみ | 2,910 | 830 | 3,740 | | | | 3,740 |
| 動物 | | 102 | 523 | 625 | | | | 625 |
| その他 | | 136,250 | 930 | 137,180 | | | | 137,180 |
| 資源ごみ | 金属類 | 5,250 | 2,555 | 7,805 | 28,382 | 10,298 | 38,680 | 46,485 |
| | 缶類 | 15 | 2,995 | 3,010 | 9,154 | 28,459 | 37,613 | 40,623 |
| | びん類 | 76,550 | 10,820 | 87,370 | | 272 | 272 | 87,642 |
| | 紙パック | | | | 2,620 | 1,626 | 4,246 | 4,246 |
| | ダンボール | 220 | 4,875 | 5,095 | 38,050 | 67,747 | 105,797 | 110,892 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | 79,250 | 116,017 | 195,267 | 195,267 |
| | その他紙製容器類 | 100 | 3,040 | 3,140 | 65,140 | | 65,140 | 68,280 |
| | ペットボトル | 5 | 480 | 485 | 21,780 | 4,671 | 26,451 | 26,936 |
| | プラスチック類 | 106,320 | 19,840 | 126,160 | | | | 126,160 |
| | 木くず | 205,650 | 18,305 | 223,955 | | | | 223,955 |
| | 衣類 | 1,650 | 2,885 | 4,535 | 12,686 | | 12,686 | 17,221 |
| 廃食用油 | | | | 3,700 | | 3,700 | 3,700 | |
| 計 | | 1,234,092 | 296,343 | 1,530,435 | 260,762 | 229,090 | 489,852 | 2,020,287 |

| 分別区分 | | 平成29年度 | | | | | | 合計 |
|------|----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| | | 組合搬入・処理 | | | 町内搬入・処理 | | | |
| | | 計画収集 | 直接搬入 | 計 | 町資源化 | 集団回収 | 計 | |
| 生ごみ | | 289,140 | 141,140 | 430,280 | | | | 430,280 |
| 埋立ごみ | | 365,620 | 119,820 | 485,440 | | | | 485,440 |
| 粗大ごみ | | 32,780 | 35,840 | 68,620 | | | | 68,620 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 20,230 | 8,485 | 28,715 | | | | 28,715 |
| | 有害ごみ | 2,700 | 920 | 3,620 | | | | 3,620 |
| 動物 | | 96 | 388 | 484 | | | | 484 |
| その他 | | 30 | 750 | 780 | | | | 780 |
| 資源ごみ | 金属類 | 4,810 | 3,500 | 8,310 | 22,407 | 6,723 | 29,130 | 37,440 |
| | 缶類 | 50 | 2,730 | 2,780 | 7,742 | 25,180 | 32,922 | 35,702 |
| | びん類 | 74,080 | 8,280 | 82,360 | | 575 | 575 | 82,935 |
| | 紙パック | | | | 2,590 | 1,391 | 3,981 | 3,981 |
| | ダンボール | 120 | 5,380 | 5,500 | 54,020 | 67,278 | 121,298 | 126,798 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | 72,220 | 109,584 | 181,804 | 181,804 |
| | その他紙製容器類 | 160 | 3,720 | 3,880 | 78,110 | | 78,110 | 81,990 |
| | ペットボトル | | 440 | 440 | 20,350 | 5,308 | 25,658 | 26,098 |
| | プラスチック類 | 109,800 | 25,385 | 135,185 | | | | 135,185 |
| | 木くず | 203,550 | 23,730 | 227,280 | | | | 227,280 |
| | 衣類 | 2,840 | 1,980 | 4,820 | 12,711 | | 12,711 | 17,531 |
| 廃食用油 | | 20 | 20 | 3,540 | | 3,540 | 3,560 | |
| 小型家電 | | | | | 959 | 959 | 959 | |
| 計 | | 1,106,006 | 382,508 | 1,488,514 | 273,690 | 216,998 | 490,688 | 1,979,202 |

2 組合搬入ごみ排出量実績

平成25年度～平成29年度の過去5年間の組合に搬入しているごみ排出量実績を以下に示します。

表 1-2 組合搬入ごみ排出量実績(1)

| 分別区分 | 平成25年度/組合搬入 | | | | | |
|------|-------------|---------|---------|--------|-----|-----------|
| | 役場系 | 事業系 | 一般 | 開発 | 帯建管 | 合計 |
| 生ごみ | 323,960 | 102,430 | 3,860 | | | 430,250 |
| 埋立ごみ | 376,690 | 99,970 | 42,400 | 890 | | 519,950 |
| 粗大ごみ | 34,030 | 9,510 | 23,010 | | | 66,550 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 21,930 | 2,010 | 9,730 | | 33,670 |
| | 有害ごみ | 3,020 | 905 | | 10 | 3,935 |
| 動物 | 4,283 | 29 | 865 | 1,923 | | 7,100 |
| その他 | 10 | | 38,020 | | | 38,030 |
| 資源ごみ | 金属類 | 6,550 | 920 | 2,290 | 60 | 9,820 |
| | 缶類 | 70 | 965 | 1,145 | 360 | 2,540 |
| | びん類 | 87,200 | 2,960 | 2,190 | 280 | 92,630 |
| | 紙パック | | | | | |
| | ダンボール | 90 | 2,725 | 3,275 | 80 | 6,170 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | | |
| | その他紙製容器類 | 100 | 3,465 | 1,625 | | 5,190 |
| | ペットボトル | 20 | 105 | 280 | 220 | 625 |
| | プラスチック類 | 106,120 | 11,940 | 295 | 50 | 118,405 |
| | 木くず | 207,190 | 15,520 | 16,430 | | 239,140 |
| | 衣類 | 17,110 | 160 | 1,460 | | 18,730 |
| 廃食用油 | | | | | 0 | |
| 計 | 1,188,373 | 253,614 | 146,875 | 3,873 | | 1,592,735 |

| 分別区分 | 平成26年度/組合搬入 | | | | | |
|------|-------------|---------|--------|-------|-----|-----------|
| | 役場系 | 事業系 | 一般 | 開発 | 帯建管 | 合計 |
| 生ごみ | 315,750 | 108,065 | 2,765 | | | 426,580 |
| 埋立ごみ | 355,970 | 84,535 | 30,810 | 900 | 100 | 472,315 |
| 粗大ごみ | 34,980 | 9,860 | 19,850 | | | 64,690 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 21,700 | 1,295 | 8,400 | 60 | 31,455 |
| | 有害ごみ | 3,150 | 960 | 60 | | 4,170 |
| 動物 | 844 | 3 | 782 | 1,401 | | 3,030 |
| その他 | | | | | | |
| 資源ごみ | 金属類 | 6,460 | 1,275 | 1,880 | | 9,615 |
| | 缶類 | | 595 | 1,510 | 360 | 2,465 |
| | びん類 | 82,820 | 2,515 | 1,690 | 90 | 87,135 |
| | 紙パック | | | | | |
| | ダンボール | 420 | 2,325 | 2,430 | 230 | 5,405 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | | |
| | その他紙製容器類 | 320 | 3,935 | 1,420 | | 5,675 |
| | ペットボトル | | 160 | 280 | 220 | 670 |
| | プラスチック類 | 105,670 | 13,155 | 265 | 50 | 119,140 |
| | 木くず | 210,280 | 16,250 | 7,820 | | 234,350 |
| | 衣類 | 2,480 | 65 | 2,170 | | 4,715 |
| 廃食用油 | | | 10 | | 10 | |
| 計 | 1,140,844 | 244,993 | 82,142 | 3,311 | 130 | 1,471,420 |

表 1-2 組合搬入ごみ排出量実績(2)

| 分別区分 | 平成27年度/組合搬入 | | | | | |
|------|-------------|---------|---------|--------|-------|-----------|
| | 役場系 | 事業系 | 一般 | 開発 | 帯建管 | 合計 |
| 生ごみ | 306,810 | 106,315 | 1,820 | | | 414,945 |
| 埋立ごみ | 358,250 | 89,230 | 28,110 | 910 | | 476,500 |
| 粗大ごみ | 31,120 | 11,170 | 26,420 | | | 68,710 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 19,920 | 1,995 | 11,820 | 70 | 33,805 |
| | 有害ごみ | 3,300 | 780 | 100 | | 4,180 |
| 動物 | 149 | 3 | 327 | 340 | 6 | 825 |
| その他 | 350 | | 55,960 | | | 56,310 |
| 資源ごみ | 金属類 | 5,010 | 1,215 | 2,635 | 350 | 9,210 |
| | 缶類 | | 480 | 650 | 570 | 1,700 |
| | びん類 | 83,630 | 5,830 | 3,335 | 210 | 93,005 |
| | 紙パック | | | | | |
| | ダンボール | 185 | 2,330 | 3,800 | 130 | 6,445 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | | |
| | その他紙製容器類 | 135 | 2,730 | 1,535 | 20 | 4,420 |
| | ペットボトル | | 125 | 215 | 150 | 490 |
| | プラスチック類 | 105,310 | 16,520 | 465 | 100 | 122,395 |
| | 木くず | 208,600 | 16,175 | 14,870 | 50 | 239,695 |
| 衣類 | 1,370 | 140 | 2,415 | | 3,925 | |
| 廃食用油 | | 35 | | | 35 | |
| 計 | 1,124,139 | 255,073 | 154,477 | 2,900 | 6 | 1,536,595 |

| 分別区分 | 平成28年度/組合搬入 | | | | | |
|------|-------------|---------|--------|--------|-------|-----------|
| | 役場系 | 事業系 | 一般 | 開発 | 帯建管 | 合計 |
| 生ごみ | 283,590 | 92,870 | 1,640 | | | 378,100 |
| 埋立ごみ | 361,870 | 73,965 | 17,200 | 1,090 | | 454,125 |
| 粗大ごみ | 34,560 | 10,400 | 21,560 | | | 66,520 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 19,050 | 1,980 | 7,560 | | 28,590 |
| | 有害ごみ | 2,910 | 720 | 110 | | 3,740 |
| 動物 | 102 | 11 | 280 | 229 | 3 | 625 |
| その他 | 136,250 | | 930 | | | 137,180 |
| 資源ごみ | 金属類 | 5,250 | 775 | 1,780 | | 7,805 |
| | 缶類 | 15 | 425 | 2,060 | 510 | 3,010 |
| | びん類 | 76,550 | 8,975 | 1,625 | 220 | 87,370 |
| | 紙パック | | | | | |
| | ダンボール | 220 | 2,025 | 2,850 | | 5,095 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | | |
| | その他紙製容器類 | 100 | 2,480 | 560 | | 3,140 |
| | ペットボトル | 5 | 145 | 285 | 50 | 485 |
| | プラスチック類 | 106,320 | 18,900 | 940 | | 126,160 |
| | 木くず | 205,650 | 7,675 | 10,630 | | 223,955 |
| 衣類 | 1,650 | 55 | 2,830 | | 4,535 | |
| 廃食用油 | | | | | | |
| 計 | 1,234,092 | 221,401 | 72,840 | 2,099 | 3 | 1,530,435 |

| 分別区分 | 平成29年度/組合搬入 | | | | | |
|------|-------------|---------|--------|--------|-------|-----------|
| | 役場系 | 事業系 | 一般 | 開発 | 帯建管 | 合計 |
| 生ごみ | 289,140 | 139,690 | 1,450 | | | 430,280 |
| 埋立ごみ | 365,620 | 102,040 | 16,230 | 1,550 | | 485,440 |
| 粗大ごみ | 32,780 | 12,270 | 23,570 | | | 68,620 |
| 危険ごみ | 危険ごみ | 20,230 | 2,195 | 6,290 | | 28,715 |
| | 有害ごみ | 2,700 | 860 | 60 | | 3,620 |
| 動物 | 96 | 2 | 221 | 165 | | 484 |
| その他 | 30 | | 750 | | | 780 |
| 資源ごみ | 金属類 | 4,810 | 920 | 2,580 | | 8,310 |
| | 缶類 | 50 | 610 | 1,660 | 460 | 2,780 |
| | びん類 | 74,080 | 7,470 | 750 | 60 | 82,360 |
| | 紙パック | | | | | |
| | ダンボール | 120 | 1,965 | 3,235 | 180 | 5,500 |
| | 新聞紙・雑誌 | | | | | |
| | その他紙製容器類 | 160 | 2,775 | 935 | 10 | 3,880 |
| | ペットボトル | | 215 | 45 | 180 | 440 |
| | プラスチック類 | 109,800 | 24,330 | 1,015 | 40 | 135,185 |
| | 木くず | 203,550 | 13,660 | 10,070 | | 227,280 |
| 衣類 | 2,840 | 110 | 1,870 | | 4,820 | |
| 廃食用油 | | | 20 | | 20 | |
| 計 | 1,106,006 | 309,112 | 70,751 | 2,645 | 0 | 1,488,514 |

1 ごみ分別区分

2019年度から、①燃やすごみ、②燃やさないごみ、③粗大ごみ、④資源ごみ、⑤危険ごみの5区分となります。

現在、資源ごみとして分別している木くず及び衣類は、燃やすごみとなります。生ごみは、燃やすごみとなります。埋立ごみのうち燃やせるものは燃やすごみ、燃やせないものは燃やさないごみとなります。

2 ごみ排出量実績

2013年度（平成25年度）～2017年度（平成29年度）の過去5年間の実績を整理したものを表2-1に示します。なお、動物や火事ごみ・災害廃棄物などは、通常のごみと異なり特殊かつ不定期に発生するため、ごみ排出量推計を行わないことから、表2-1の実績から除いています。また、2019年度以降のごみ分別を踏まえ、資源ごみについては、木くず及び衣類を除いた排出量も整理しました。

表 2-1 ごみ排出量実績（再整理）

（単位：ごみ量 t/年、排出量原単位 g/人・日）

| 区分 | | | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | 平均 | | |
|-----------------|------------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 排出量 | 計画収集 | 資源ごみ | | 700 | 672 | 679 | 657 | 669 | | |
| | | 生ごみ | | 324 | 316 | 307 | 284 | 289 | | |
| | | 埋立ごみ | | 377 | 356 | 358 | 362 | 366 | | |
| | | 粗大ごみ | ① | 34 | 35 | 31 | 35 | 33 | | |
| | | 危険ごみ | | 25 | 25 | 23 | 22 | 23 | | |
| | | 計 | ② | 1,460 | 1,404 | 1,398 | 1,360 | 1,380 | | |
| | 直接搬入 | 家庭系 | 資源ごみ | | 29 | 19 | 30 | 24 | 22 | |
| | | | 生ごみ | | 4 | 3 | 2 | 2 | 1 | |
| | | | 埋立ごみ | | 42 | 31 | 28 | 17 | 16 | |
| | | | 粗大ごみ | ③ | 23 | 20 | 26 | 22 | 24 | |
| | | | 危険ごみ | | 10 | 8 | 12 | 8 | 6 | |
| | | | 計 | ④ | 108 | 81 | 98 | 73 | 69 | |
| | | 事業系 | 資源ごみ | | 40 | 41 | 47 | 42 | 53 | |
| | | | 生ごみ | | 102 | 108 | 106 | 93 | 140 | |
| | | | 埋立ごみ | | 101 | 86 | 90 | 75 | 104 | |
| | | | 粗大ごみ | ⑤ | 10 | 10 | 11 | 10 | 12 | |
| | | | 危険ごみ | | 3 | 2 | 2 | 3 | 3 | |
| | | | 計 | ⑥ | 256 | 247 | 256 | 223 | 312 | |
| | | 合計 | ⑦ | 1,824 | 1,732 | 1,752 | 1,656 | 1,761 | | |
| (行政区域内人口) | | | | 7,398 | 7,263 | 7,164 | 7,076 | 6,972 | | |
| 排出量原単位（家庭系＋事業系） | | | | 675 | 653 | 670 | 641 | 692 | 666 | |
| 排出量原単位（家庭系） | | | | 581 | 560 | 572 | 555 | 569 | 567 | |
| 資源ごみ （※） | 計画収集 | | ⑧ | 476 | 459 | 469 | 450 | 463 | | |
| | 直接搬入 | 家庭系 | ⑨ | 11 | 9 | 13 | 11 | 10 | | |
| | | 事業系 | ⑩ | 24 | 25 | 31 | 34 | 39 | | |
| 割合 | 計画収集/合計 | | ②/⑦ | 80.0% | 81.1% | 79.8% | 82.1% | 78.4% | 80.3% | |
| | 直接搬入家庭系/合計 | | ④/⑦ | 5.9% | 4.7% | 5.6% | 4.4% | 3.9% | 4.9% | |
| | 直接搬入事業系/合計 | | ⑥/⑦ | 14.0% | 14.3% | 14.6% | 13.5% | 17.7% | 14.8% | |
| | 計画収集 | 資源(※)/計 | ⑧/② | 32.6% | 32.7% | 33.5% | 33.1% | 33.6% | 33.1% | |
| | | 粗大/計 | ①/② | 2.3% | 2.5% | 2.2% | 2.6% | 2.4% | 2.4% | |
| | 直接搬入 | 家庭系 | 資源(※)/計 | ⑨/④ | 10.2% | 11.1% | 13.3% | 15.1% | 14.5% | 12.8% |
| | | | 粗大/計 | ③/④ | 21.3% | 24.7% | 26.5% | 30.1% | 34.8% | 27.5% |
| | | 事業系 | 資源(※)/計 | ⑩/⑥ | 9.4% | 10.1% | 12.1% | 15.2% | 12.5% | 11.9% |
| 粗大/計 | | | ⑤/⑥ | 3.9% | 4.0% | 4.3% | 4.5% | 3.8% | 4.1% | |

注) 排出量に動物・災害廃棄物等は含まない

※木くず、衣類を含まない資源ごみ量

3 排出量原単位の推計

2013年度（平成25年度）～2017年度（平成29年度）の過去5年間のごみ排出量原単位は、増減を繰り返していますが、循環型社会の形成に向けて、ごみ排出量の削減が求められます。そこで、過去5年間のごみ排出量原単位の平均値をベースとし、最低値を目安に目標数値を設定しました。

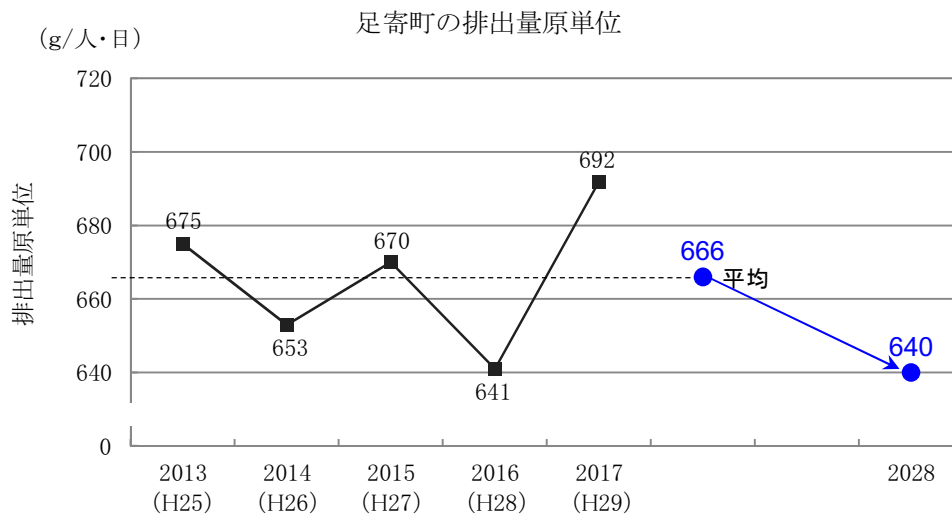


図 2-1 排出量原単位の目標数値

表 2-2 排出量原単位推計

(単位：g/人・日)

| 区分 | 排出量原単位 |
|------|--------|
| 2019 | 663 |
| 2020 | 661 |
| 2021 | 658 |
| 2022 | 656 |
| 2023 | 653 |
| 2024 | 650 |
| 2025 | 648 |
| 2026 | 645 |
| 2027 | 643 |
| 2028 | 640 |

4 人口推計

人口ビジョン（「足寄町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 27 年 9 月））をもとに人口推計を行いました。人口ビジョンにおける人口推計は 10 年ごとのため、その間は直線補完しました。

表 2-3 人口推計
(単位：人)

| 区分 | 人口 |
|------|-------|
| 2019 | 6,803 |
| 2020 | 6,713 |
| 2021 | 6,624 |
| 2022 | 6,535 |
| 2023 | 6,446 |
| 2024 | 6,357 |
| 2025 | 6,268 |
| 2026 | 6,178 |
| 2027 | 6,089 |
| 2028 | 6,000 |

5 ごみ排出量推計

排出量原単位推計値と人口推計値をもとに全体ごみ排出量推計値を算出します。

計画収集ごみ及び直接搬入ごみ量は、全体ごみ排出量推計値にごみ排出量実績における当該排出量割合平均値を乗じて算出します。

資源ごみ量及び粗大ごみ量は、ごみ排出量推計値にごみ排出量実績における当該排出量割合平均値を乗じて算出します。

燃やすごみ及び燃やさないごみ量は、十勝圏複合事務組合における 2013 年度（平成 25 年度）～2017 年度（平成 29 年度）の過去 5 年間のごみ搬入量実績を参考に算出します。上記のごみ排出量推計値から資源ごみ量及び粗大ごみ量を引いた量に、十勝圏複合事務組合の 5 年間の可燃ごみ量と不燃ごみ量の割合平均値を乗じて算出します。（計画収集ごみ：可燃ごみ 84.0%、不燃ごみ 16.0%、直接搬入家庭系ごみ：可燃ごみ 33.0%、不燃ごみ 67.0%、直接搬入事業系ごみ：可燃ごみ 97.0%、不燃ごみ 3.0%）

表 2-4 ごみ排出量推計

(単位：t/年)

| 区分 | | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | |
|------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 計画収集 | 資源ごみ | 438 | 431 | 423 | 416 | 408 | |
| | 燃やすごみ | 716 | 705 | 692 | 681 | 668 | |
| | 燃やさないごみ | 136 | 134 | 132 | 130 | 127 | |
| | 粗大ごみ | 32 | 31 | 31 | 30 | 30 | |
| | 計 | 1,322 | 1,301 | 1,278 | 1,257 | 1,233 | |
| 直接搬入 | 家庭系 | 資源ごみ | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | 燃やすごみ | 16 | 16 | 16 | 15 | 15 |
| | | 燃やさないごみ | 33 | 31 | 31 | 31 | 29 |
| | | 粗大ごみ | 22 | 22 | 21 | 21 | 21 |
| | | 計 | 81 | 79 | 78 | 77 | 75 |
| | 事業系 | 資源ごみ | 29 | 29 | 28 | 27 | 27 |
| | | 燃やすごみ | 198 | 195 | 191 | 189 | 186 |
| | | 燃やさないごみ | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | 粗大ごみ | 10 | 10 | 10 | 9 | 9 |
| | | 計 | 243 | 240 | 235 | 231 | 228 |
| 合計 | 資源ごみ | 477 | 470 | 461 | 453 | 445 | |
| | 燃やすごみ | 930 | 916 | 899 | 885 | 869 | |
| | 燃やさないごみ | 175 | 171 | 169 | 167 | 162 | |
| | 粗大ごみ | 64 | 63 | 62 | 60 | 60 | |
| | 計 | 1,646 | 1,620 | 1,591 | 1,565 | 1,536 | |

| 区分 | | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | |
|------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 計画収集 | 資源ごみ | 401 | 394 | 387 | 380 | 373 | |
| | 燃やすごみ | 656 | 645 | 633 | 621 | 610 | |
| | 燃やさないごみ | 125 | 123 | 120 | 118 | 116 | |
| | 粗大ごみ | 29 | 29 | 28 | 28 | 27 | |
| | 計 | 1,211 | 1,191 | 1,168 | 1,147 | 1,126 | |
| 直接搬入 | 家庭系 | 資源ごみ | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| | | 燃やすごみ | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 |
| | | 燃やさないごみ | 30 | 29 | 28 | 28 | 27 |
| | | 粗大ごみ | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 |
| | | 計 | 74 | 73 | 71 | 70 | 69 |
| | 事業系 | 資源ごみ | 27 | 26 | 26 | 25 | 25 |
| | | 燃やすごみ | 181 | 178 | 175 | 173 | 169 |
| | | 燃やさないごみ | 6 | 6 | 5 | 5 | 5 |
| | | 粗大ごみ | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 |
| | | 計 | 223 | 219 | 215 | 212 | 207 |
| 合計 | 資源ごみ | 437 | 429 | 422 | 414 | 407 | |
| | 燃やすごみ | 852 | 838 | 822 | 808 | 793 | |
| | 燃やさないごみ | 161 | 158 | 153 | 151 | 148 | |
| | 粗大ごみ | 58 | 58 | 57 | 56 | 54 | |
| | 計 | 1,508 | 1,483 | 1,454 | 1,429 | 1,402 | |